

EPSON

# Endeavor LX9000



## ユーザーズマニュアル

### ご使用の前に

コンピューターをご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みください。

# 目次

## 1

### はじめに

|                   |   |
|-------------------|---|
| マニュアル中の表記.....    | 4 |
| 各部の名称.....        | 6 |
| コンピューターを設置する..... | 8 |

## 2

### 装置の増設・交換

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 増設・交換できる装置.....       | 16 |
| 作業時の注意.....           | 17 |
| 装置装着時の準備作業.....       | 18 |
| メモリーの装着.....          | 23 |
| 拡張ボードの装着.....         | 32 |
| ドライブ装置とコネクタの接続.....   | 38 |
| 5.25 型ドライブの装着.....    | 41 |
| 3.5 型ドライブの装着.....     | 45 |
| コンピューター内部のケーブル接続..... | 50 |

## 3

### BIOS の設定

|                              |    |
|------------------------------|----|
| BIOS の設定を始める前に.....          | 52 |
| BIOS Setup ユーティリティの操作.....   | 53 |
| BIOS Setup ユーティリティの設定項目..... | 65 |

### 付録

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| お手入れ.....                     | 76 |
| リチウム電池の脱着（CMOS RAM の初期化）..... | 77 |
| コンピューターを廃棄するときは.....          | 80 |
| 機能仕様一覧.....                   | 81 |

# 1

## はじめに

コンピューターを使用する前に必要な事項について説明します。

|                   |   |
|-------------------|---|
| マニュアル中の表記.....    | 4 |
| 各部の名称.....        | 6 |
| コンピューターを設置する..... | 8 |

# マニュアル中の表記

## 安全に関する記号

本書では次のような記号を使用しています。

|   |  |
|---|--|
|  | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。                |
|  | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

## 一般情報に関する記号

本書では、次のような一般情報に関する記号を使用しています。

|   |   |
|---|---|
|    | 制限事項です。<br>機能または操作上の制限事項を記載しています。   |
|    | 参考事項です。<br>覚えておくと便利なことを記載しています。   |
|   | 操作手順です。<br>ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。   |
|    | 手順が次ページに続くことを示します。  |
|    |  で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。<br> は Enter キーを表します。また、  は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。 |
|  +  | +の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。<br>この例では、  を押したまま  を押します。  |

## 参照先に関する記号

本書では、次のような参照先に関する記号を使用しています。

|   |                                   |
|---|-----------------------------------|
|  | 本書内の参照ページを示します。                   |
|  | 別冊子を示します。                         |
| 「 」   | 冊子の名称を示します。<br>例) 『サポート・サービスのご案内』 |

## 名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

|           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| HDD       | ハードディスクドライブ                          |
| FD        | フロッピーディスク                            |
| FDD       | フロッピーディスクドライブ                        |
| 光ディスクメディア | CD メディア、DVD メディア、Blu-ray Disc メディアなど |
| 光ディスクドライブ | 光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称             |

## HDD 容量の記載

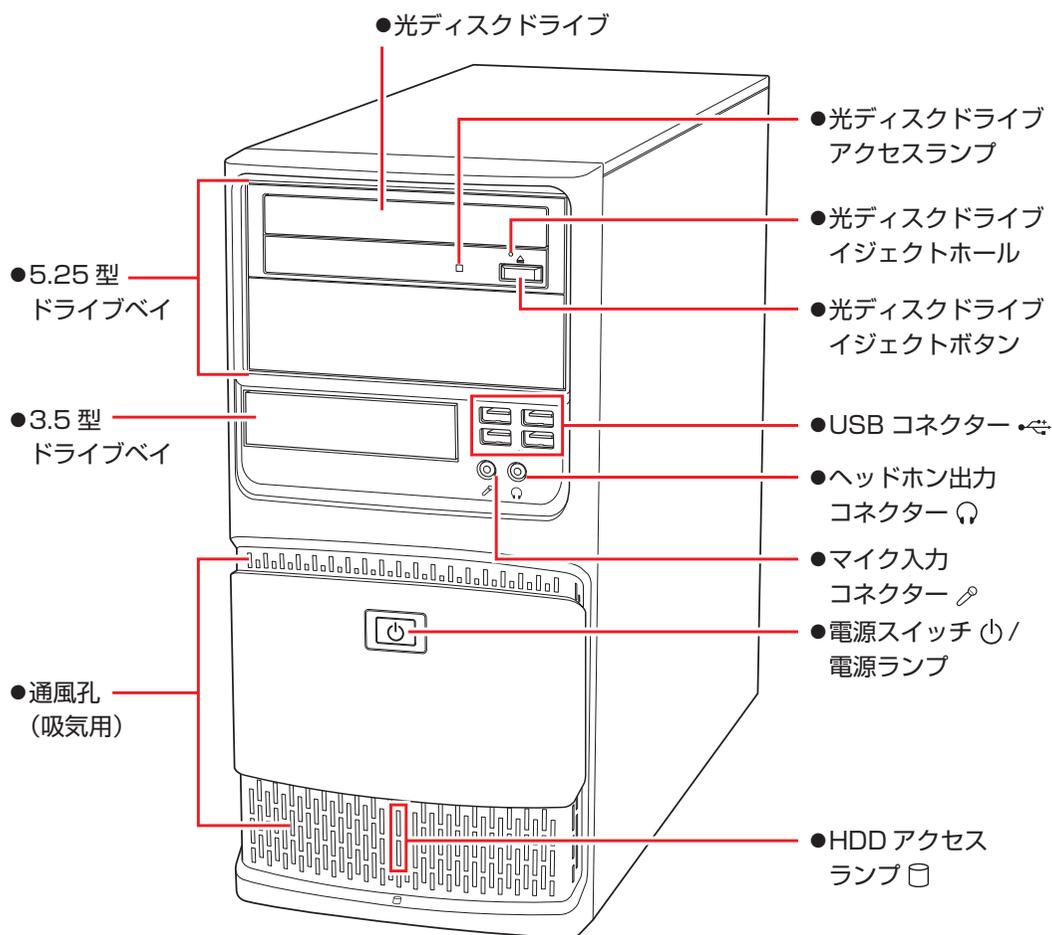
本書では、HDD 容量を 1GB (ギガバイト) =1000MB として記載しています。

## メモリー容量の記載

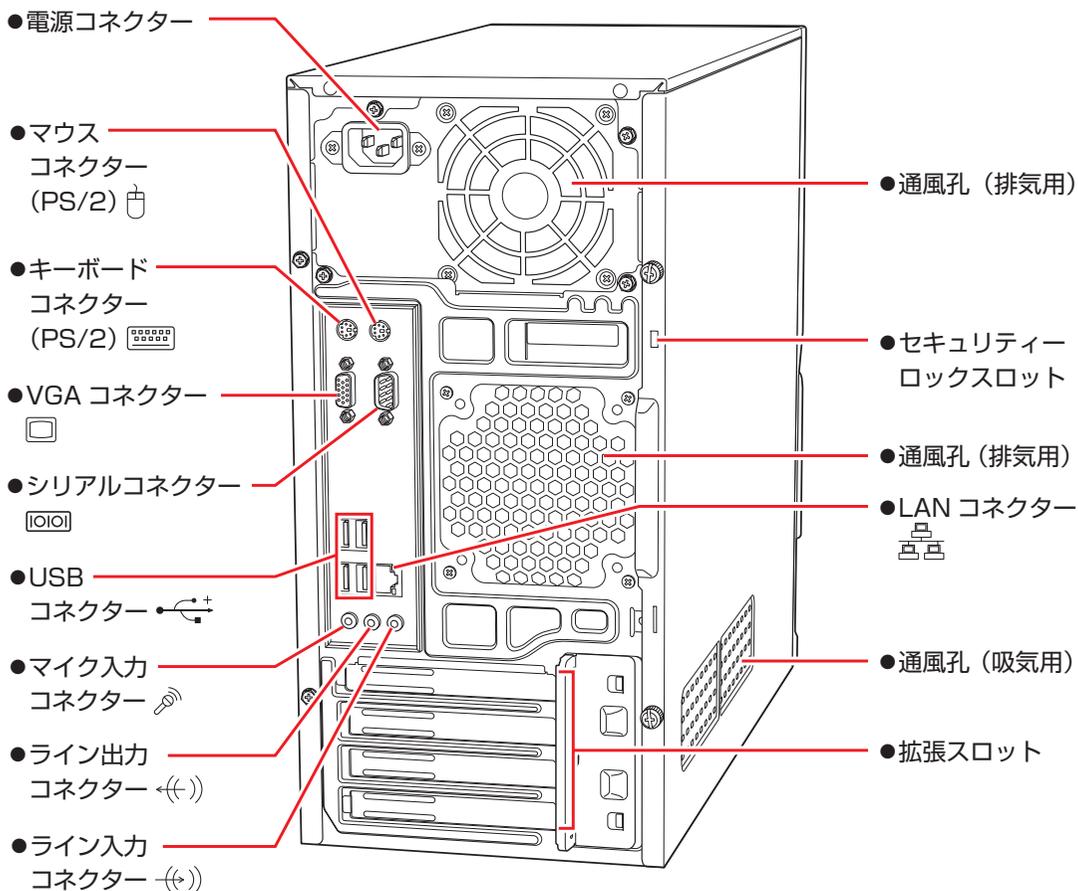
本書では、メモリー容量を 1GB (ギガバイト) =1024MB として記載しています。

# 各部の名称

## 本体前面



## 本体背面・側面

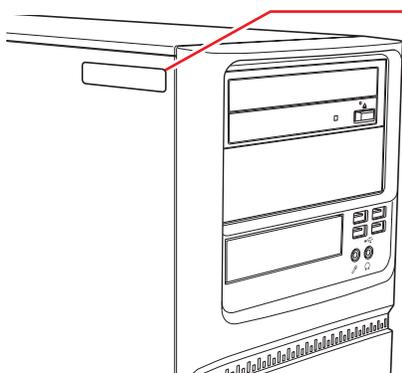


## 貼付ラベル



**制限**

ラベルは絶対にはがさないでください。



### ●お問い合わせ情報シール

本機の型番や製造番号が記載されています。  
製造番号はお問い合わせの際に必要です。

別冊『サポート・サービスのご案内』の表紙に書き写しておいてください。

# コンピューターを設置する

本機を設置し、使用できる状態にする手順を説明します。

## 設置における注意



注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。  
通風孔をふさぐと、内部に熱がこもって本機が熱くなり、火傷や火災の原因となります。設置の際は、次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上に設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

## 各種コード（ケーブル）接続時の注意



警告

- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流 100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

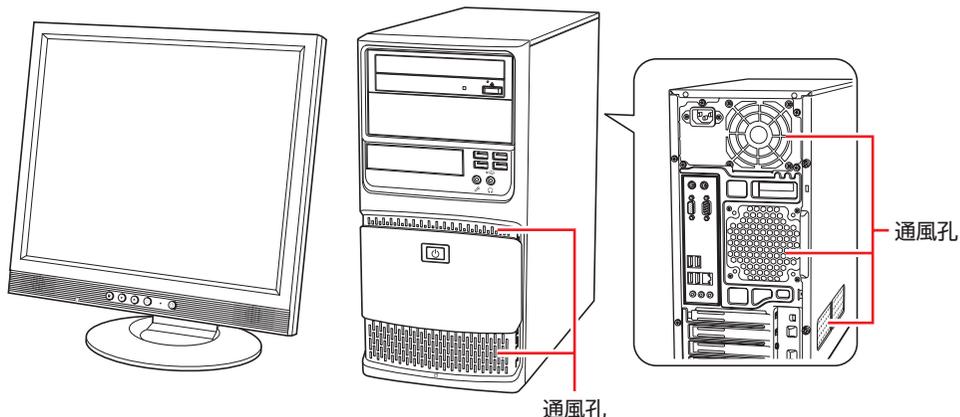


注意

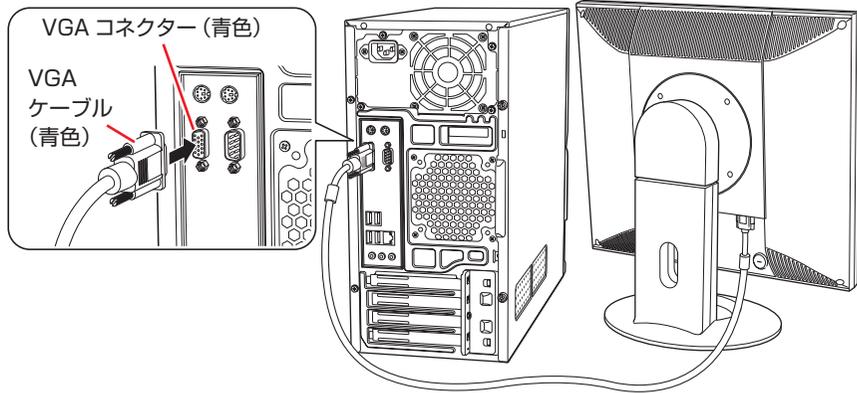
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

## 1 本機とディスプレイを設置場所（丈夫で水平な台の上など）に置きます。

本機は横置きで使用できません。必ず縦置きで使用してください。  
通風孔をふさがないように設置してください。

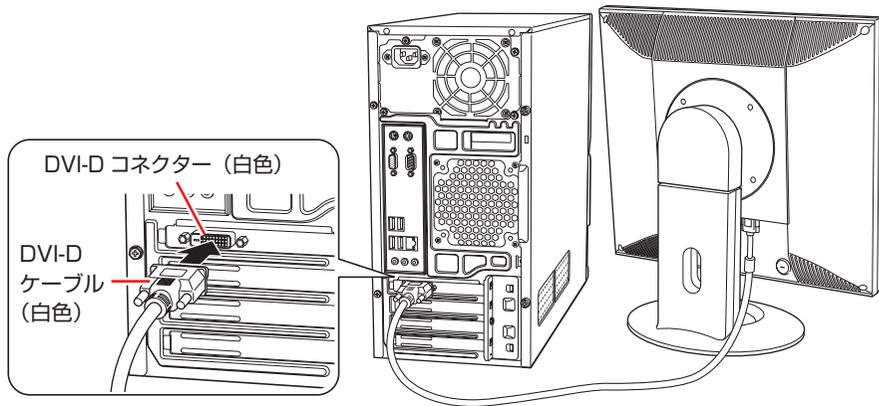


- 2** ディスプレイのVGAケーブルを本機背面のVGAコネクター（）に接続します。  
接続時は、ディスプレイに添付のマニュアルも合わせてご覧ください。



### DVI ADD2 ボードが装着されている場合

ディスプレイのDVI-DケーブルをDVI ADD2ボードのDVI-Dコネクターに接続します。  
画像がデジタル出力されます。



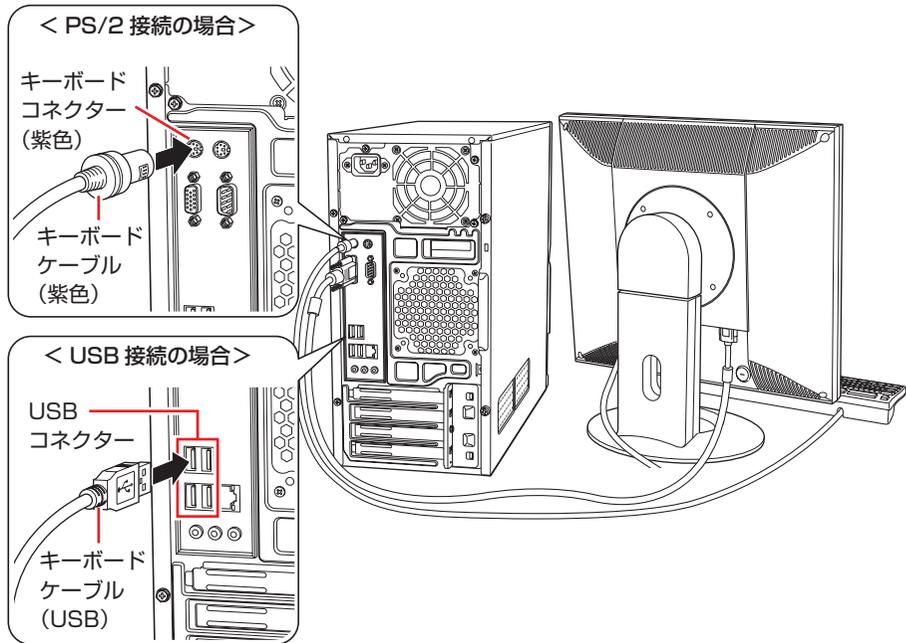
**制限**

本機にディスプレイ2台を接続して画面表示することはできません。



### 3 キーボードを接続します。

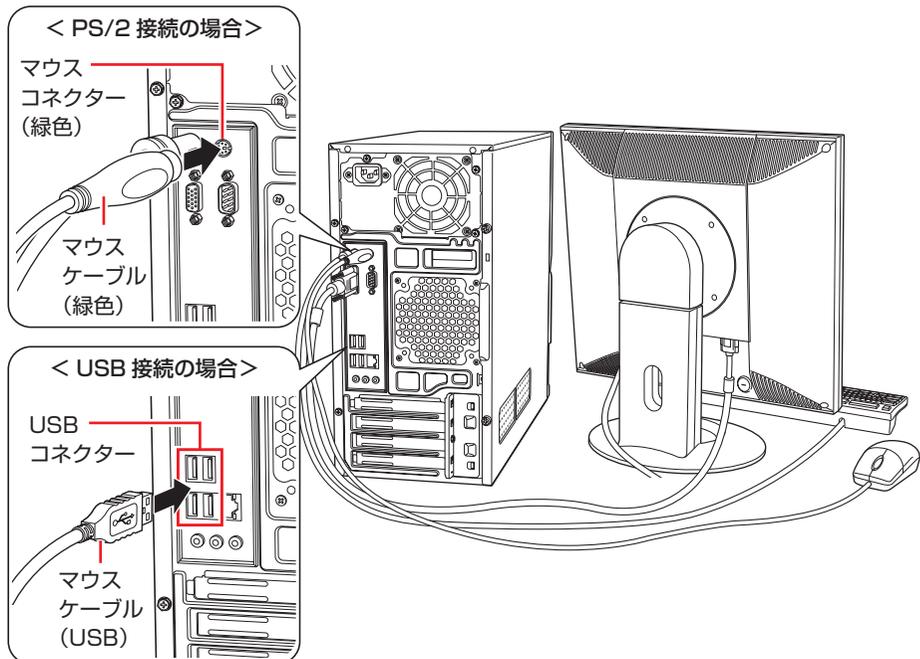
ここでは一般的な接続方法を説明します。



キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。

### 4 マウスを接続します。

ここでは一般的な接続方法を説明します。

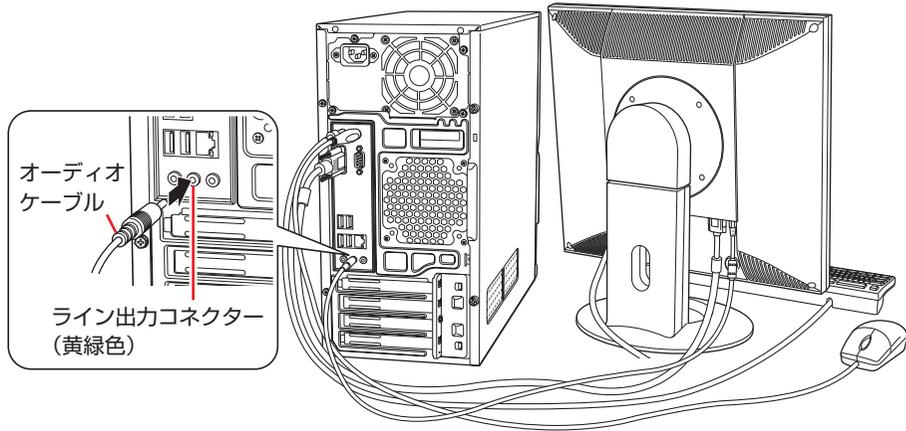


**制限**

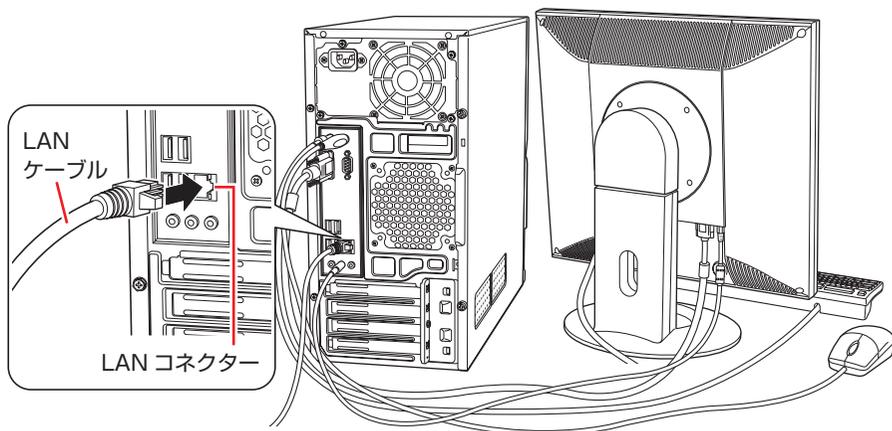
本機が省電力状態や電源を切った状態であっても、マウスによっては底面のランプが光り続けます。これは、お使いのマウスの仕様です。

**5** 本機にスピーカーは内蔵されていません。音声を出力する場合は、ディスプレイやスピーカーのオーディオケーブルを、本機背面のライン出力コネクタ（）に接続します。

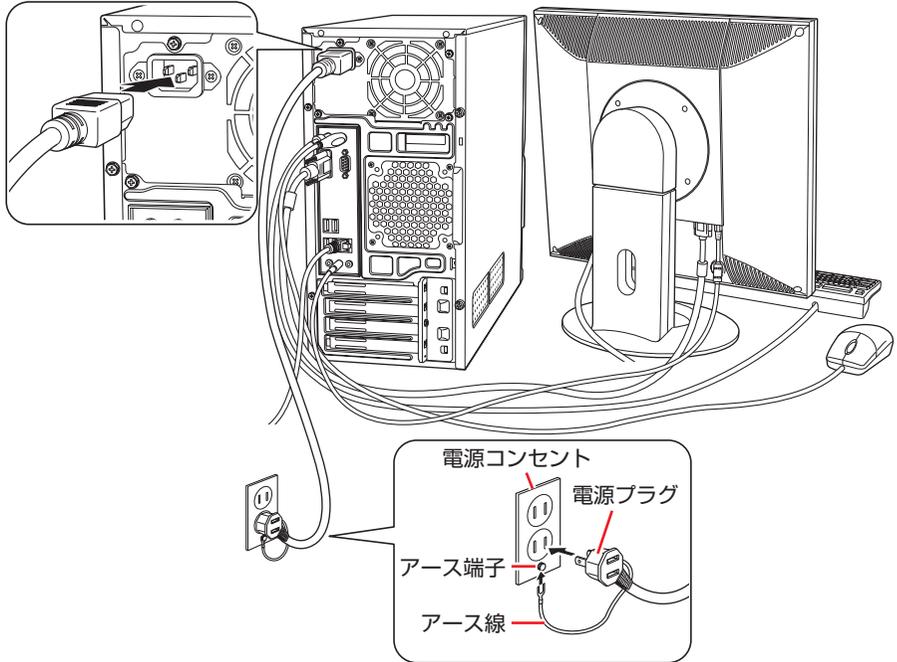
詳しくはディスプレイやスピーカーに添付のマニュアルをご覧ください。



**6** ネットワークを使用する場合は、市販の LAN ケーブルを本機背面の LAN コネクタ（）に接続します。



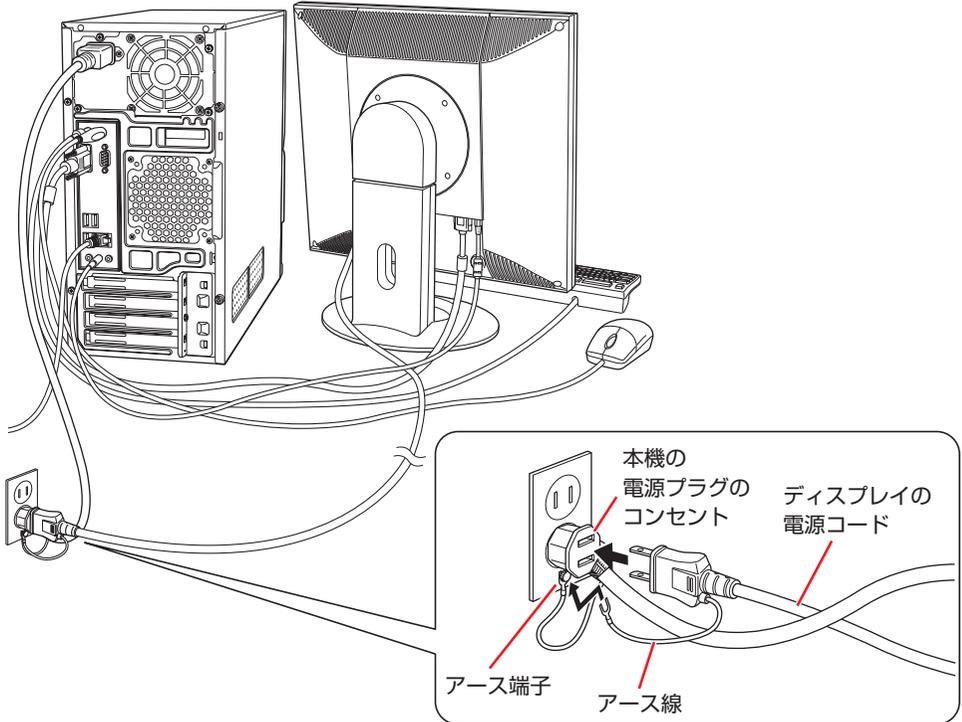
**7** 本機の電源コードを接続します。



- 8** ディスプレイの電源コードを、**7** で接続した本機の電源プラグのコンセントに接続します。



本機の電源プラグのコンセント（定格 8A）には、コンピューター用ディスプレイ以外の機器を接続しないでください。  
発熱し、火災の危険があります。



これでコンピューターの設置は完了です。



# 2

## 装置の増設・交換

メモリーや拡張ボード、5.25 型ドライブ（光ディスクドライブ）、3.5 型ドライブ（HDD）の増設・交換方法について記載しています。

|                        |    |
|------------------------|----|
| 増設・交換できる装置 .....       | 16 |
| 作業時の注意 .....           | 17 |
| 装置装着時の準備作業 .....       | 18 |
| メモリーの装着 .....          | 23 |
| 拡張ボードの装着 .....         | 32 |
| ドライブ装置とコネクタの接続 .....   | 38 |
| 5.25 型ドライブの装着 .....    | 41 |
| 3.5 型ドライブの装着 .....     | 45 |
| コンピューター内部のケーブル接続 ..... | 50 |

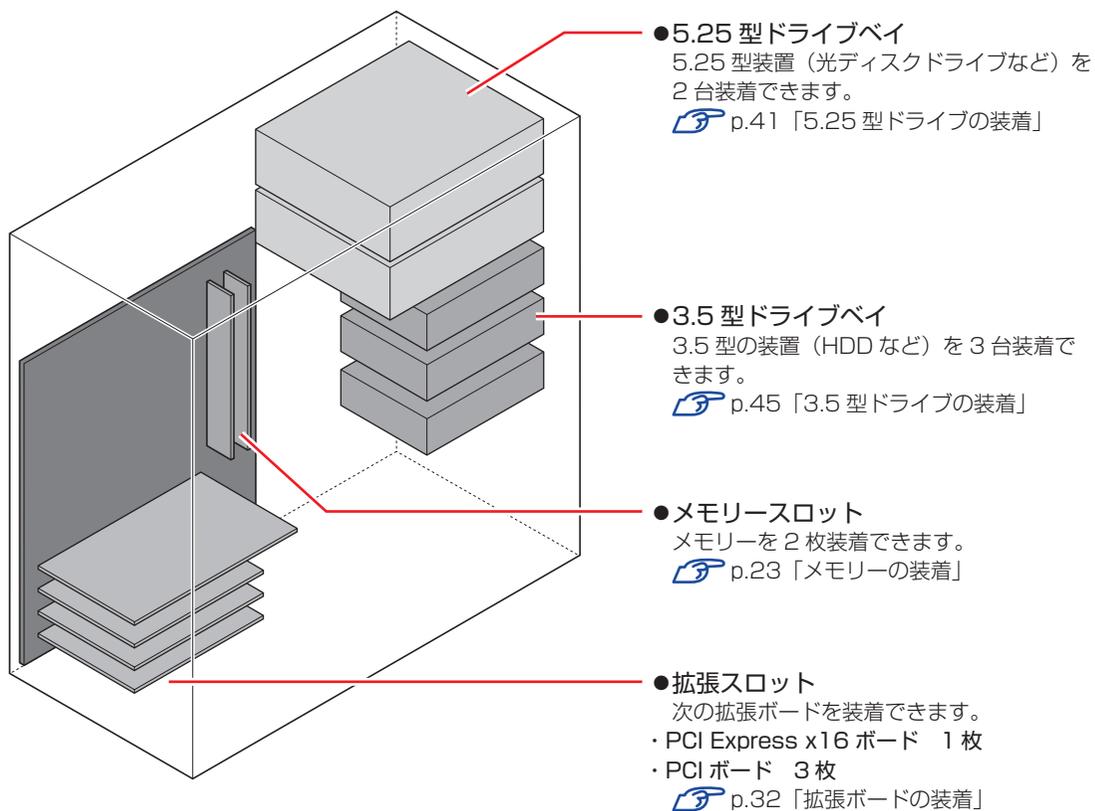
# 増設・交換できる装置

本機では、次の装置を増設・交換することができます。

ただし、購入時の選択によっては、すでにいくつかの装置が装着されているため、増設できる装置の数は異なります。

## ！ 制限

- マニュアルで方法を記載していない装置の増設・交換は行わないでください。故障の原因となります。
- 本機のマザーボードに搭載されているシリアル ATA コネクタは 4 つです。このため、シリアル ATA 仕様の HDD/ 光ディスクドライブは、合わせて 4 台までの接続となります。



# 作業時の注意

内部装置の取り付け・取り外しをする場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 内部装置の取り付け・取り外しをするときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。  
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。  
けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の取り付け・取り外しは、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置のマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。装置や本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- 拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- 拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

# 装置装着時の準備作業

装置の装着を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の装着手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。  
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

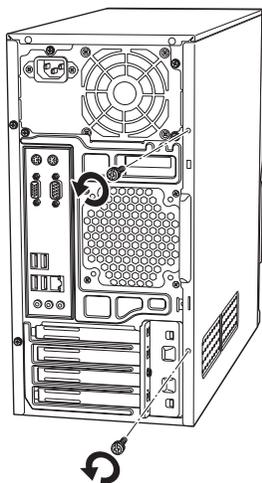
## 本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

### 取り外し

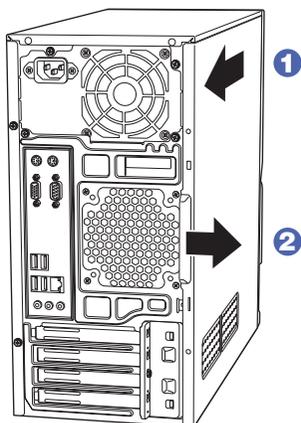
本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

- 1** 本体背面右側のネジ（2本）を外します。



- 2** 本体カバーを取り外します。

- 1** 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
- 2** 本体カバーを横へ外します。

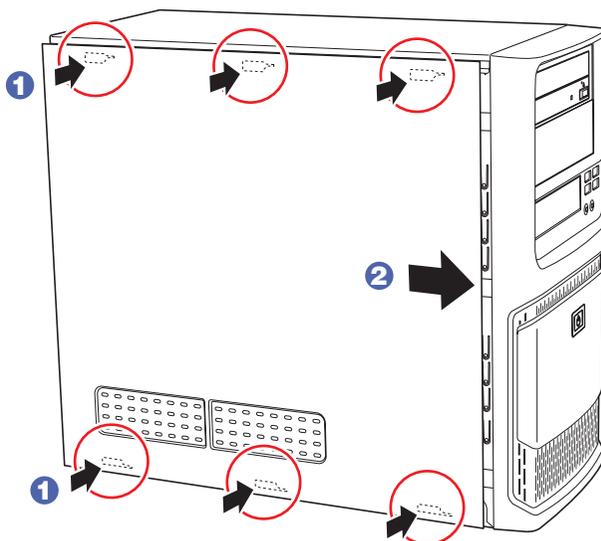


## 取り付け

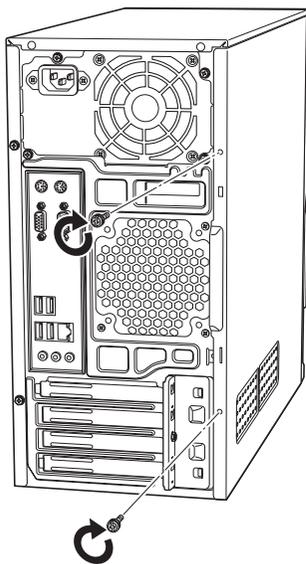
本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

### 1 本体カバーを取り付けます。

- 1 本体側面の穴（6 個）とカバーの突起（6 個）の位置を合わせて、本体カバーを横からはめ込みます。
- 2 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



### 2 ネジ（2 本）で本体カバーを固定します。



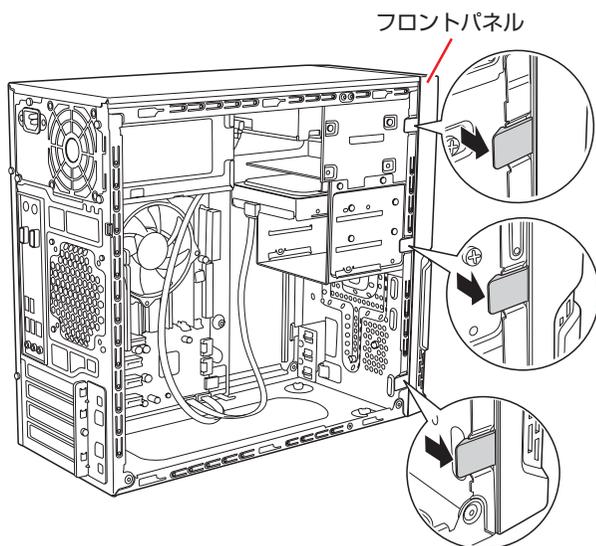
## フロントパネルの取り外し・取り付け

本機の内部に装着する装置によっては、フロントパネルを取り外す必要があります。

### 取り外し

フロントパネルの取り外し方法は次のとおりです。

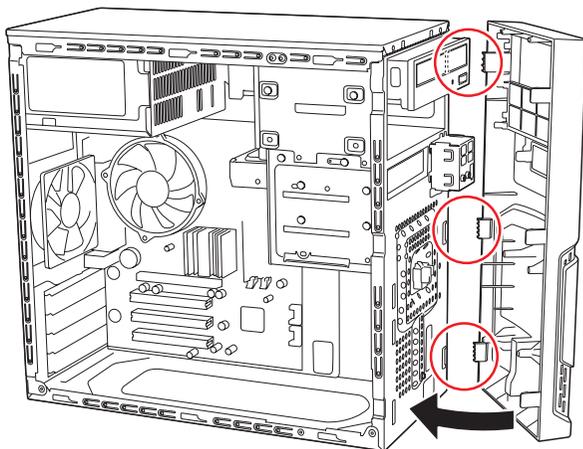
- 1 フック（3カ所）を外して、フロントパネルを取り外します。



### 取り付け

フロントパネルの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルのフック（3カ所）を本体前面右側の穴（3カ所）に差し込みます。
- 2 フロントパネルの左側を押し込みます。



## 5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け

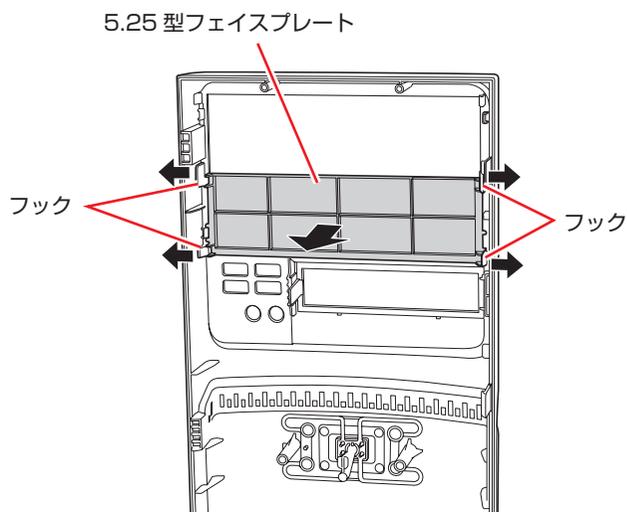
5.25型フェイスプレートは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

### 取り外し

5.25型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネル側のフック（4カ所）を外側に向かって押し、フェイスプレートを取り外します。

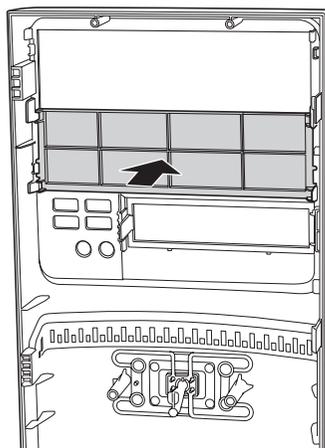
外したフェイスプレートは大切に保管してください。



### 取り付け

5.25型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネルにフェイスプレートを押し込み、フックで固定します。



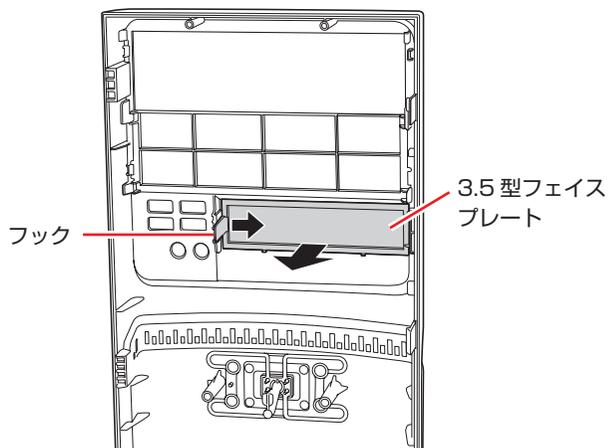
## 3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け

3.5型フェイスプレートは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

### 取り外し

3.5型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

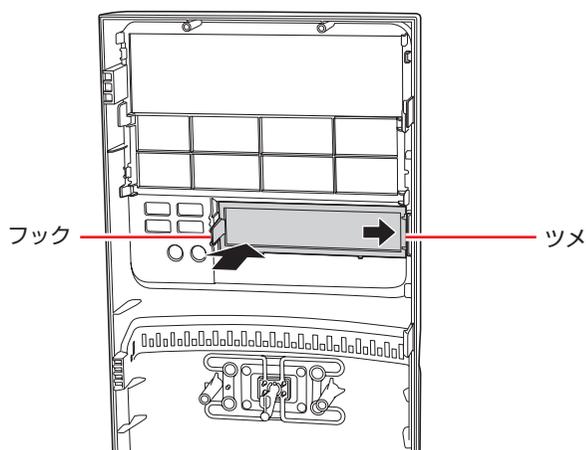
- 1** フックを内側に押し、フェイスプレートを外します。  
外したフェイスプレートは大切に保管してください。



### 取り付け

3.5型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** フェイスプレートのツメをフロントパネル側に差し込んでから、フック側を押し込みます。



# メモリーの装着

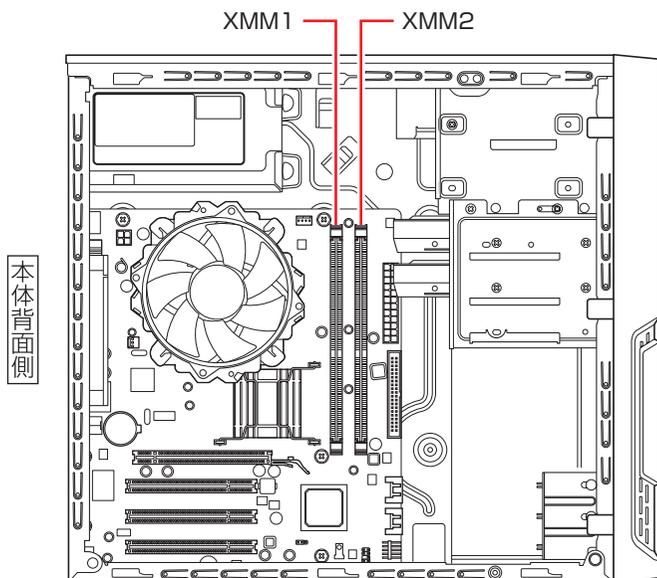
本機で使用可能なメモリーの仕様と、メモリーの取り付け・取り外し方法について説明します。本機にはメモリスロットが2本あり、メモリーを最大4GBまで搭載することができます。



**制限**

Linuxの場合、本機に合計3GBを超えるメモリーを搭載しても、システム上利用できるメモリーの最大容量は約3GBまでです。

マザーボード上のメモリスロットの位置は、次のとおりです。



## メモリーの仕様

本機で使用可能なメモリーは、次のとおりです。

- PC3-10600 (DDR3-1333 SDRAM 使用)
- メモリー容量 1GB、2GB
- Non ECC
- 240ピン
- CL=9

## 最新メモリー情報

今後、使用可能なメモリーが追加される場合があります。  
また、それにともない、最大搭載可能容量が変更になることがあります。  
メモリーの最新情報は、当社ホームページでご確認ください。

<http://shop.epson.jp/>  
<http://www.epsondirect.co.jp/support/>

## メモリー装着の組み合わせ

本機はデュアルチャンネルに対応しているため、同一容量のメモリーを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。

メモリー装着の組み合わせとメモリーの動作は、次のとおりです。

| メモリー装着の組み合わせ | メモリーの動作                |
|--------------|------------------------|
| 同一容量のメモリー2枚  | デュアルチャンネルで動作。転送速度最大。   |
| メモリー1枚*      | 通常の転送速度で動作（シングルチャンネル）。 |

\*メモリー1枚で使用する場合は、XMM1 スロットに装着してください。

## メモリー取り付け・取り外し時の注意

メモリーの取り付け・取り外しをする場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- メモリーの取り付け・取り外しをするときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。  
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。  
けがや感電・火災の原因となります。



- メモリーの取り付け・取り外しは、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- メモリーの切り欠きとメモリースロット内の仕切りは、確実に合わせてください。  
メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。

### 制限

- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリーや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリーを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 固定具が確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。再度、メモリーの向きを確認し、固定具が確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。
- メモリーは落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリーの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

## メモリーの取り付け・取り外し

メモリーの取り付け・取り外し方法は、次のとおりです。  
作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

### 取り付け

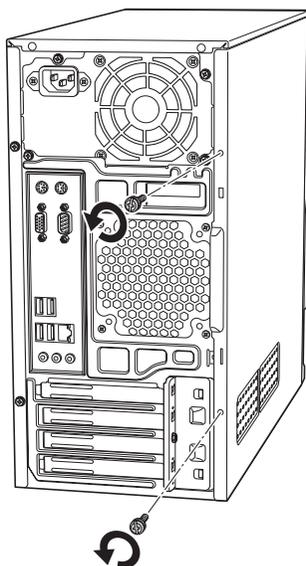
メモリーの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。

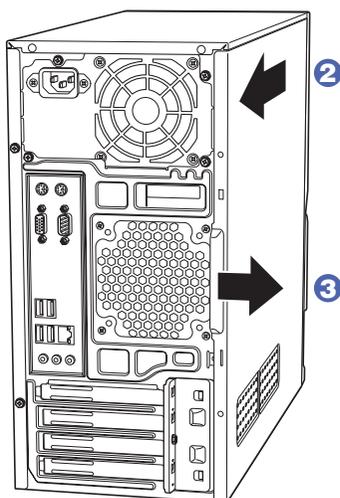


### 3 本体カバーを取り外します。

- 1 本体背面右側のネジ（2本）を外します。

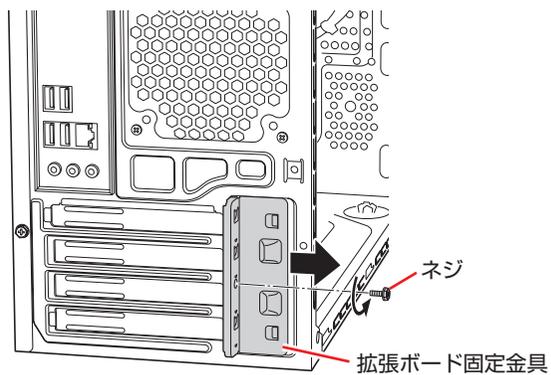


- 2 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
- 3 本体カバーを横へ外します。

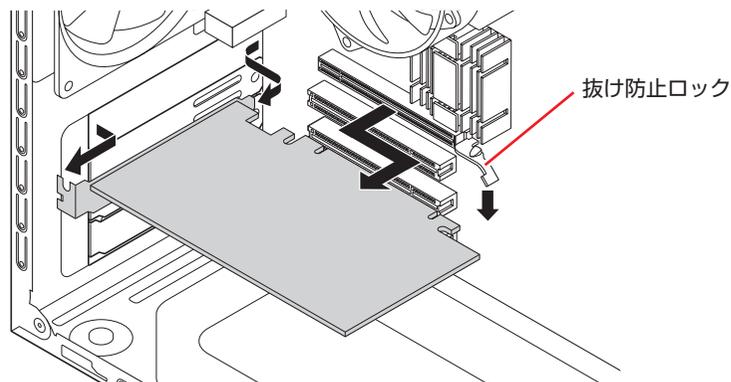


**4** PCI Express x16 スロットにボードが装着されていて、作業の妨げになる場合は、ボードを外します。

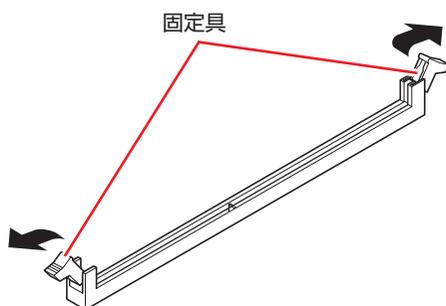
**1** ネジを外して、拡張ボード固定金具を取り外します。



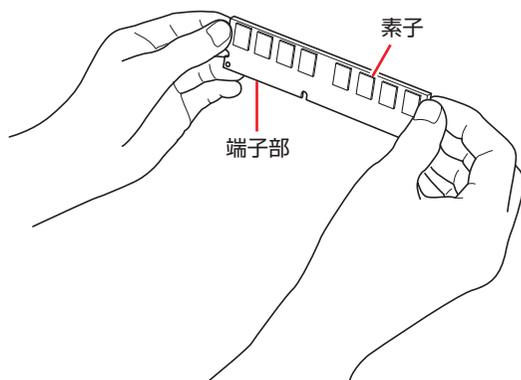
**2** 抜け防止ロックを下に押しながら、ボードを引き抜きます。



**5** メモリースロット両端の固定具を開きます。

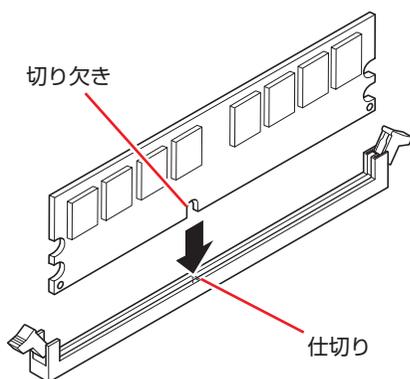


- 6** メモリーを静電防止袋から取り出します。  
メモリーの端子部や素子に触れないように注意します。



- 7** メモリースロットにメモリーを差し込みます。

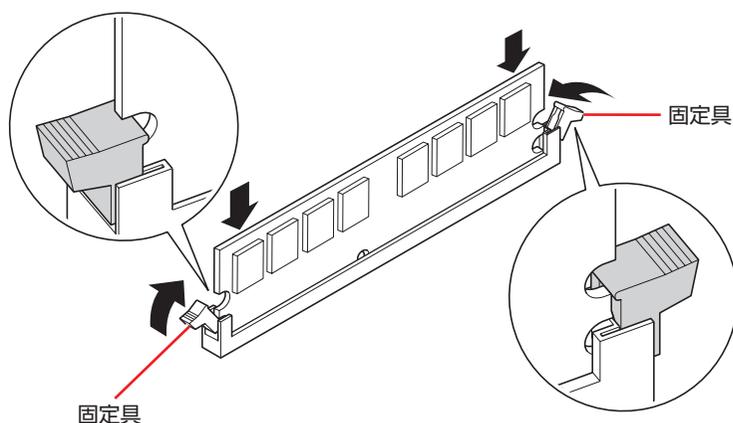
- ①** メモリーの切り欠きをメモリースロット内の仕切りに合わせます。



注意

メモリーの切り欠きとメモリースロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。

- ② メモリーを押し込むと、カチッと音がして固定具が閉じ、メモリーが固定されます。  
固定具が確実に閉じて、メモリーが固定されたことを必ず確認してください。



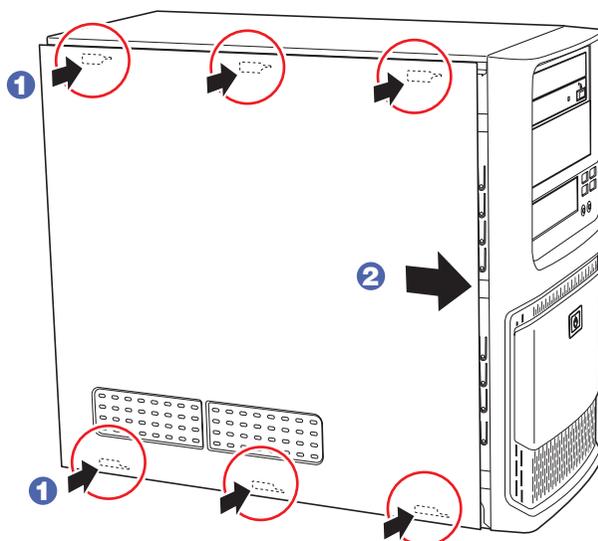
**！ 制限**

固定具が確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。  
再度、メモリーの向きを確認し、固定具が確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。

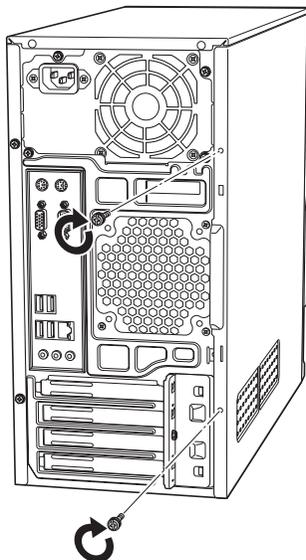
- ⑧ ④ でボードを外した場合は、元どおりに装着します。

- ⑨ 本体カバーを取り付けます。

- ① 本体側面の穴（6 個）とカバーの突起（6 個）の位置を合わせて、本体カバーを横からはめ込みます。  
② 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



- ③ ネジ（2本）で本体カバーを固定します。



- ⑩ ② で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

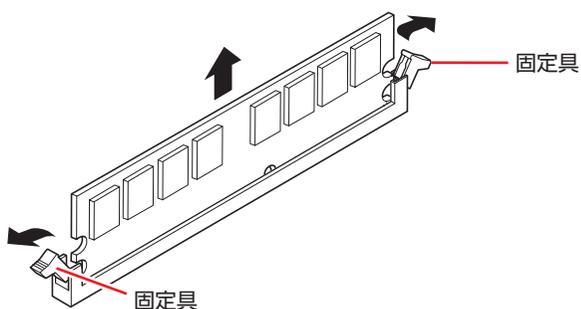
- ⑪ 本機の電源を入れて、メモリーの容量を確認します。

 p.31 「メモリー取り付け・取り外し後の作業」

## 取り外し

メモリーの取り外しは、 p.27 「取り付け」の ⑤ ～ ⑦ を次の手順に読み替えて行ってください。

- ① メモリーの両端を固定している固定具を開きます。



- ② メモリーが外れたら静かに取り外します。

静電気防止袋に入れて保管してください。

- ③ 固定具を閉じておきます。

## メモリー取り付け・取り外し後の作業

メモリーの取り付け・取り外しをしたら、メモリーが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリー容量を確認します。

メモリー容量の確認方法は次のとおりです。

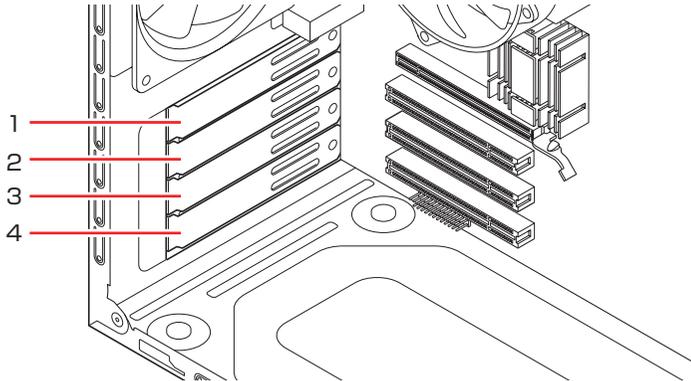
- 1** 本機の電源を入れて「EPSON」と表示されたら、すぐに **Delete** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。
- 2** 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Installed Memory」に表示されているメモリー容量を確認します。  
※「Usable Memory」項目の表示限界は 3550MB です。
- 3** **F10** を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。  
**2** でメモリー容量が正しく表示されない場合は、メモリーが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリーを正しく取り付けなおしてください。

# 拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。

## 拡張スロットの仕様

本機には拡張スロットが4つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。



| スロット番号 | コネクタ仕様          | 装着可能な拡張ボードサイズ         |
|--------|-----------------|-----------------------|
| 1      | PCI Express x16 | ボード長 198mm まで         |
| 2      | PCI 2.2         | ボード長 312mm (フルサイズ) まで |
| 3      |                 |                       |
| 4      |                 |                       |

## 拡張ボードの取り付け・取り外し



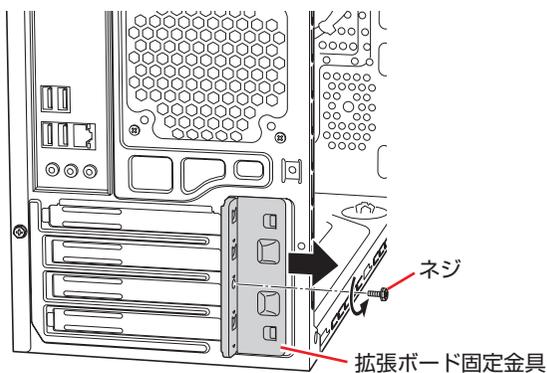
拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

作業を始める前に  p.17「作業時の注意」と拡張ボードのマニュアルを必ずお読みください。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

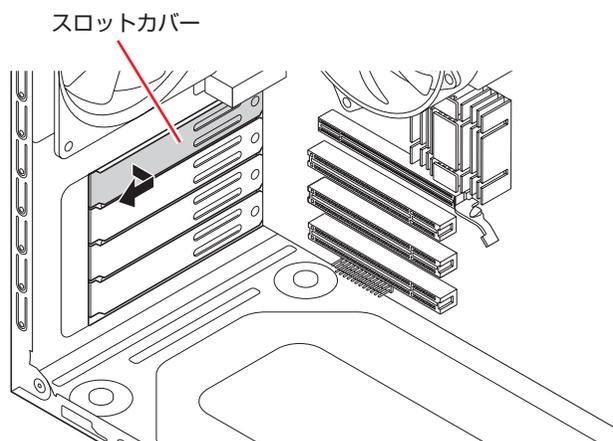
### 取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。  
 p.18「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張ボードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
  - 1** ネジを外して、拡張ボード固定金具を取り外します。



- ② スロットカバーを手前に引き抜きます。



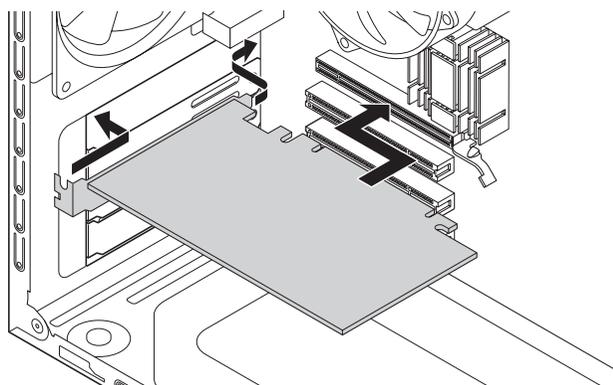
外したスロットカバーは、大切に保管してください。別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

- ⑤ 拡張ボードを取り付けます。

#### 通常のボードの場合

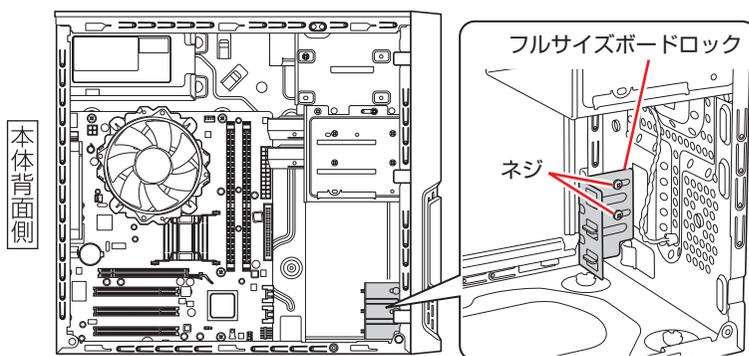
拡張ボードを差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認して、ゆっくり押し込みます。

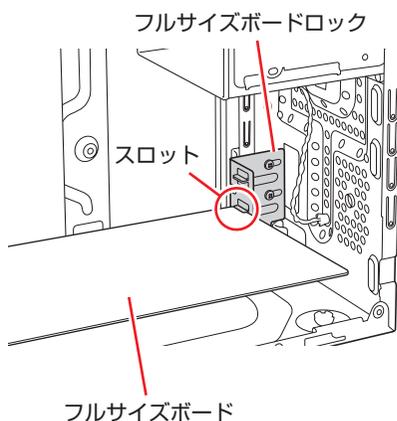


## フルサイズ (312mm) のボードの場合

- 1 フルサイズボードロックのネジ (2本) をゆるめます。



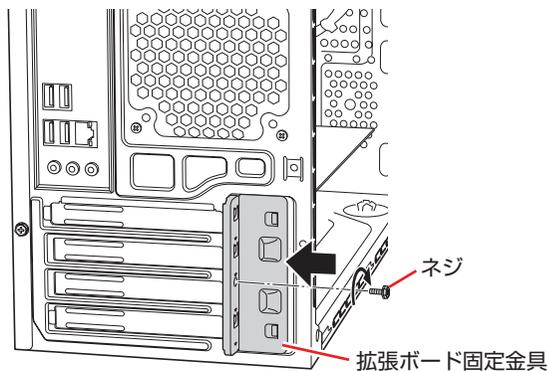
- 2 フルサイズボードロックのスロットにボードを差し込み、<通常のボードの場合>と同様に、端子部をコネクタに差し込みます。



- 3 フルサイズボードロックのネジ (2本) を締めて固定します。

## 6 拡張ボード固定金具を取り付け、ネジで固定します。

拡張ボードによっては、コンピューター内部のコネクタとのケーブル接続が必要な場合があります。拡張ボードのマニュアルで確認してください。



**7** 本体カバーを取り付けます。  
👉 p.18 「本体カバーの取り外し・取り付け」

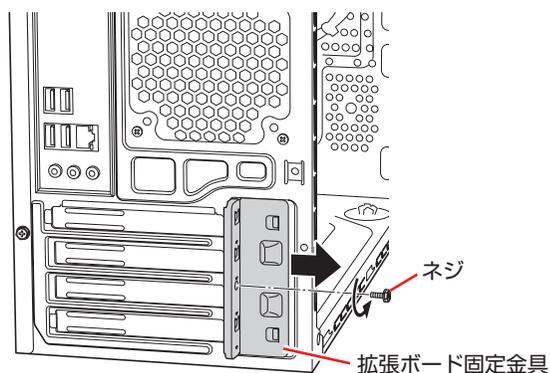
**8** **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて、👉 p.37 「拡張ボード取り付け・取り外し後の作業」を行います。

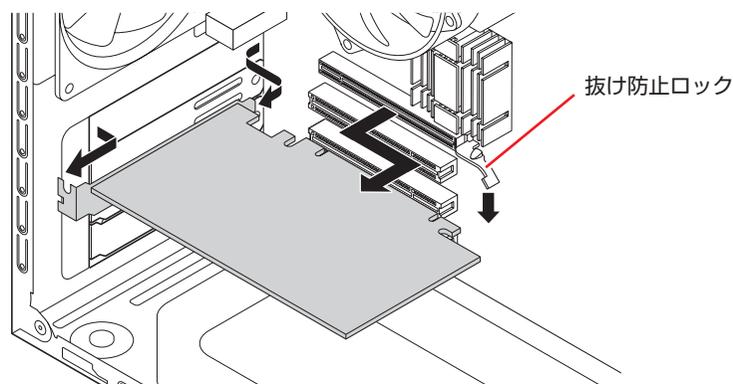
## 取り外し

拡張ボードの取り外しは、👉 p.33 「取り付け」の **4** ~ **6** を次の手順に読み替えて行ってください。

**1** ネジを外して、拡張ボード固定金具を取り外します。  
フルサイズのボードの場合は、フルサイズボードロックのネジ（2本）をゆるめます。



**2** 拡張ボードを引き抜きます。  
PCI Express x16 の場合は、抜け防止ロックを下に押しながら、ボードを引き抜きます。



**3** 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを差し込み、拡張ボード固定金具を取り付けてネジで固定します。

**1** でフルサイズボードロックのネジ（2本）をゆるめた場合は、ネジを締めておきます。

## 拡張ボード取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

---

### ビデオボードの場合

---

ビデオボードの取り付け・取り外しをした場合、BIOS などの設定は必要ありませんが、ボードによってはドライバーのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードのマニュアルをご覧ください。

---

### そのほかのボードの場合

---

拡張ボードによっては作業が必要な場合があります。詳しくはボードのマニュアルをご覧ください。

# ドライブ装置とコネクタの接続

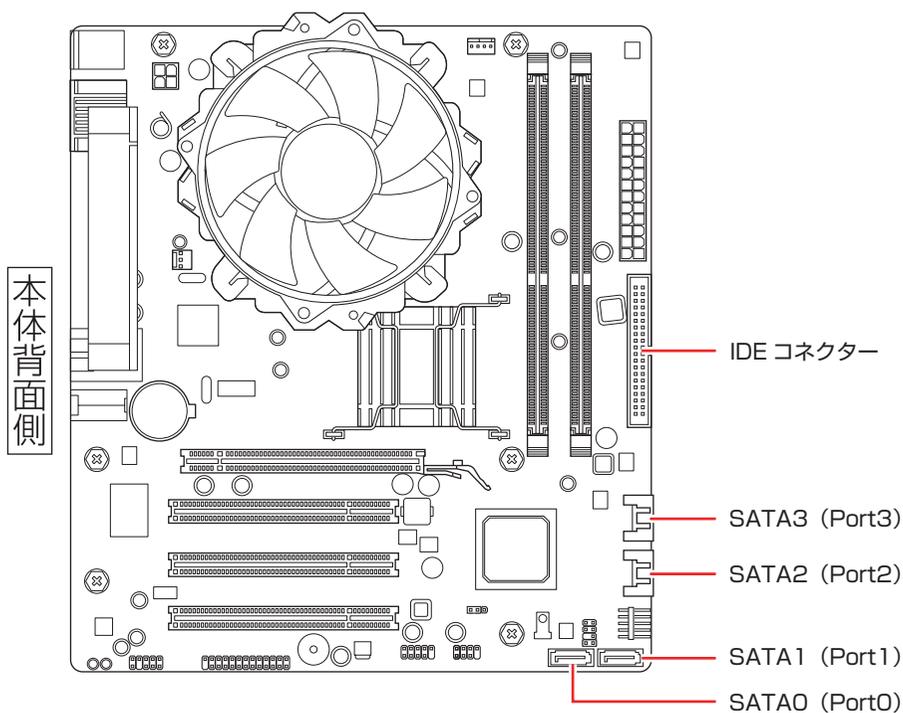
ここでは、マザーボード上のコネクタとドライブ装置の接続について説明します。

## マザーボード上のコネクタと接続できるドライブ装置

マザーボード上の次のコネクタには、それぞれの規格に対応したドライブ装置を接続することができます。

| コネクタ          | 数量  | 接続する装置                        |
|---------------|-----|-------------------------------|
| シリアル ATA コネクタ | 4 個 | シリアル ATA 仕様の HDD または光ディスクドライブ |
| IDE コネクタ      | 1 個 | IDE 仕様の HDD または光ディスクドライブ      |

各コネクタの位置は次のとおりです。



## シリアル ATA コネクタ

シリアル ATA コネクタには、シリアル ATA 仕様の HDD や光ディスクドライブを 4 台接続できます。

接続は次のように行ってください。

| コネクタ          | 接続する装置           |
|---------------|------------------|
| SATA0 (Port0) | HDD              |
| SATA1 (Port1) | HDD または光ディスクドライブ |
| SATA2 (Port2) |                  |
| SATA3 (Port3) |                  |



**制限**

OS は、SATA0 (Port0) に接続された HDD にインストールしてください。

## IDE コネクタ

IDE コネクタには、IDE 仕様の HDD や光ディスクドライブを 1 台または 2 台(ケーブルによる)接続できます。

※ 本機に IDE ケーブルは添付されていません。

## ドライブ装置に接続するケーブル類

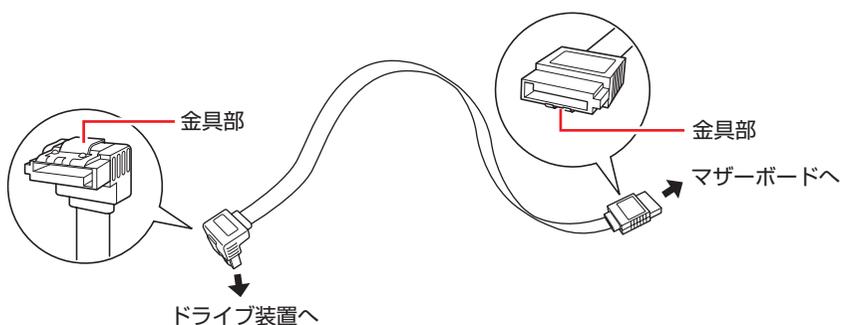
ドライブ装置は、次のケーブルを使って接続します。

### シリアル ATA ケーブル

シリアル ATA 仕様の HDD や光ディスクドライブは、「シリアル ATA ケーブル」を使って、マザーボードのシリアル ATA コネクタに接続します。シリアル ATA ケーブルは、ケーブル両端の形状とコネクタの向きを確認して接続してください。

シリアル ATA ケーブルをコネクタから抜く際は、金具部を押しながら引き抜きます。

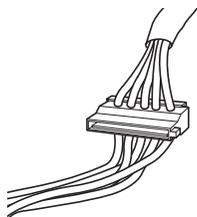
※ 本機に増設用のシリアル ATA ケーブルは添付されていません。



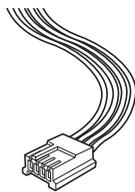
## 周辺機器用電源ケーブル

本機の電源ユニットには、ドライブ装置に電源を供給するための「周辺機器用電源ケーブル」が付いています。

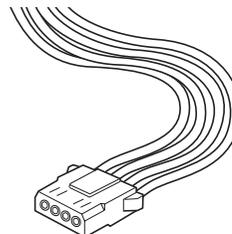
周辺機器用電源ケーブルの各コネクタの形状と、接続するドライブ装置は次のとおりです。



シリアル ATA 仕様の HDD や  
光ディスクドライブなど



3.5 型ドライブなど



IDE 仕様の HDD や  
光ディスクドライブなど

# 5.25 型ドライブの装着

5.25 型ドライブの取り付け・取り外し方法について説明します。

- 光ディスクドライブの場合  p.41
- そのほかの 5.25 型ドライブの場合  p.44

## 光ディスクドライブの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.17 「作業時の注意」と、「機器のマニュアル」を必ずお読みください。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。



**制限**

本機のマザーボードに搭載されているシリアル ATA コネクタは 4 つです。このため、HDD が 3 台装着されている場合、装着できる光ディスクドライブは 1 台のみとなります。

本機には光ディスクドライブ増設用のネジとケーブルは添付されていません。ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。 『別冊』『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

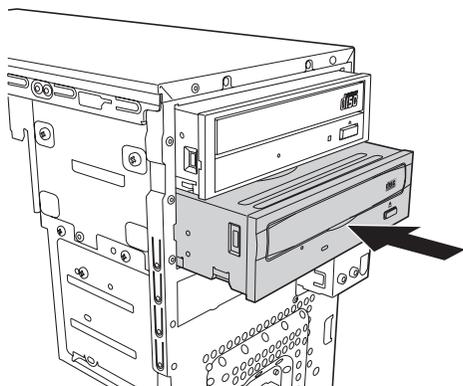
## 取り付け

光ディスクドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは、2 台目の光ディスクドライブを取り付ける方法を説明します。

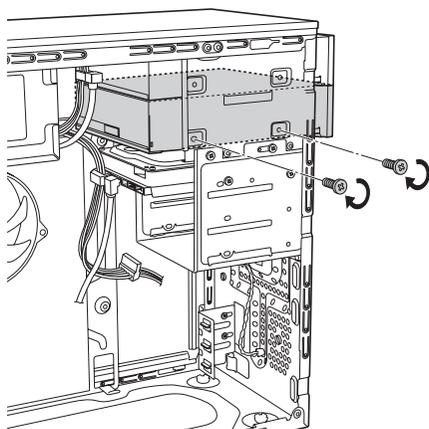
- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。  
 p.18 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** フロントパネルを取り外します。  
 p.20 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 5** フロントパネルから 5.25 型フェイスプレートを取り外します。  
 p.21 「5.25 型フェイスプレートの取り外し・取り付け」



**6** 装置を 5.25 型ドライブベイに押し込みます。



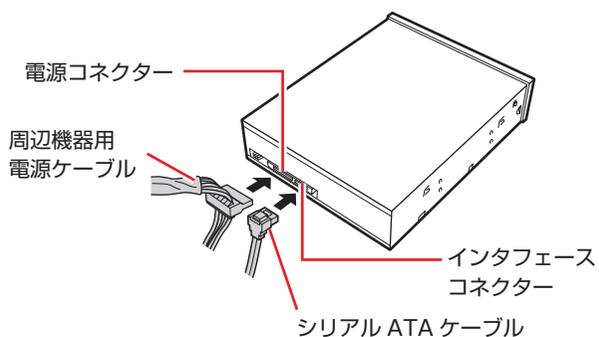
**7** 装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。



**8** ケーブル類を接続します。

- 1 周辺機器用電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
- 2 シリアル ATA ケーブルをドライブ装置のインタフェースコネクタとマザーボード上のシリアル ATA コネクタに接続します。

マザーボード上のコネクタ位置は  p.38 「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。

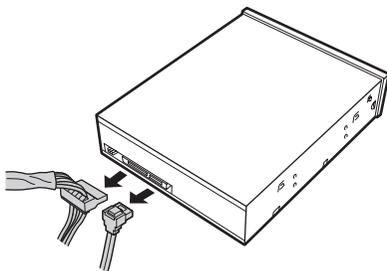


- 9** フロントパネルを取り付けます。  
 p.20 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 10** 本体カバーを取り付けます。  
 p.18 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 11** **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。  
続いて  p.44 「光ディスクドライブ取り付け・取り外し後の作業」を行います。

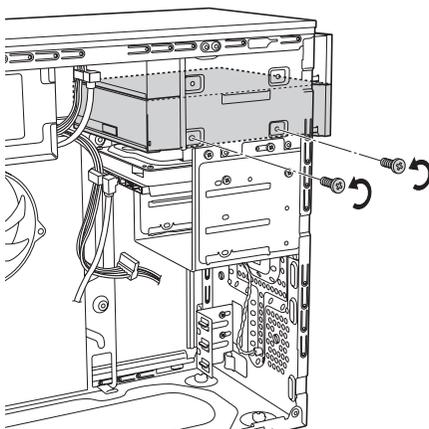
## 取り外し

光ディスクドライブの取り外しは、 p.41 「取り付け」の **5** ~ **8** を、次の手順に読み替えて行ってください。

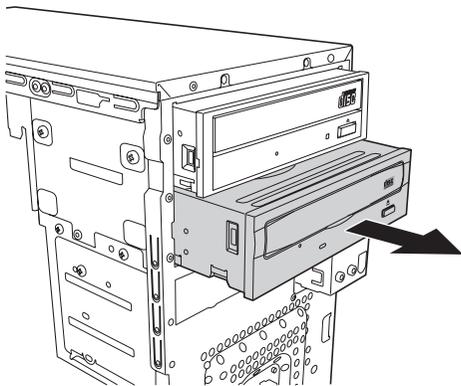
- 1** 装置に接続されているケーブル類とマザーボードに接続されているシリアル ATA ケーブルを取り外します。



- 2** 装置を固定しているネジ（2本）を外します。



**3** 装置を引き抜きます。



**4** 必要に応じて、フロントパネルに 5.25 型フェイスプレートを取り付けます。

 p.21 「5.25 型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

## 光ディスクドライブ取り付け・取り外し後の作業

5.25 型ドライブの取り付け・取り外しをした場合、光ディスクドライブによっては、ライティングソフトなどのインストール・アンインストールが必要な場合があります。詳しくは、光ディスクドライブのマニュアルをご覧ください。

## その他の5.25型ドライブを装着する

光ディスクドライブ以外の 5.25 型ドライブの場合も、光ディスクドライブと同様の手順で装着してください。

 p.41 「光ディスクドライブの取り付け・取り外し」

ケーブルの接続方法は、ドライブにより異なります。また、ドライブ装着後に、作業が必要な場合があります。詳しくは、装着するドライブのマニュアルをご覧ください。

# 3.5 型ドライブの装着

3.5 型ドライブの取り付け・取り外し方法について説明します。

- HDD の場合  p.45
- そのほかの 3.5 型ドライブの場合  p.49

## HDDの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.17 「作業時の注意」と、「機器のマニュアル」を必ずお読みください。

### ！ 制限

- 本機のマザーボードに搭載されているシリアル ATA コネクタは 4 つです。このため、光ディスクドライブが 2 台装着されている場合、装着できる HDD は 2 台までとなります。
- HDD へのアクセス制限を設定している場合は、解除してから HDD の増設を行ってください。  
 p.62 「解除方法」

本機には HDD 増設用のネジとケーブルは添付されていません。ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。 『別冊』『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

## 取り付け

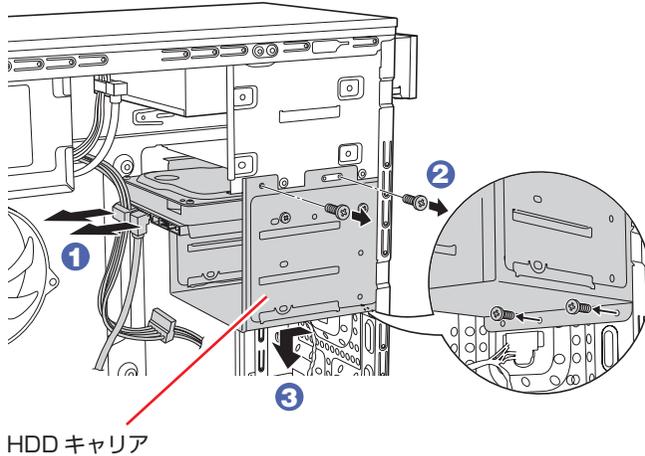
HDD の取り付け方法は次のとおりです。ここでは、2 台目の HDD を取り付ける方法を説明します。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。  
 p.18 「本体カバーの取り外し・取り付け」



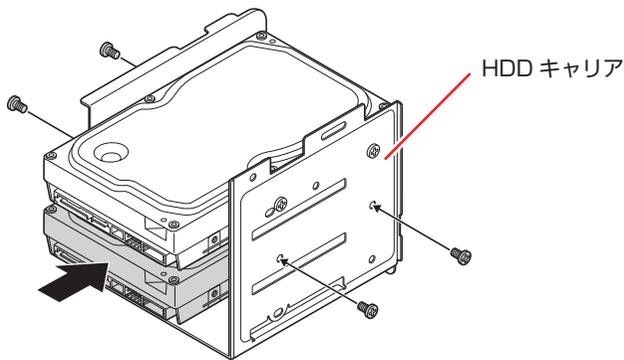
#### 4 HDD キャリアを本体から取り外します。

- 1 装着されている 1 台目の HDD に接続されているケーブル類を外します。
- 2 本体ケースと HDD キャリアを固定しているネジ (4 本) を外します。
- 3 HDD キャリアを矢印のとおりにずらして取り外します。



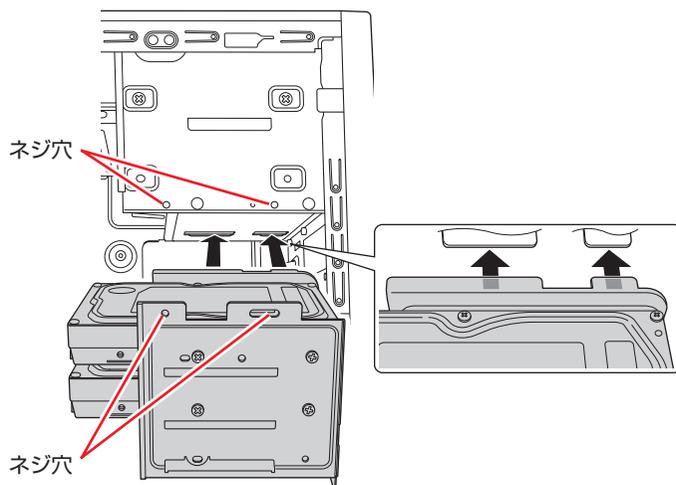
#### 5 HDD キャリアに HDD を取り付けます。

- 1 取り付ける HDD を装着されている 1 台目の HDD と同じ向きにし、HDD キャリアに差し込みます。
- 2 HDD のネジ穴を HDD キャリアのネジ穴に合わせて、ネジ (4 本) で固定します。



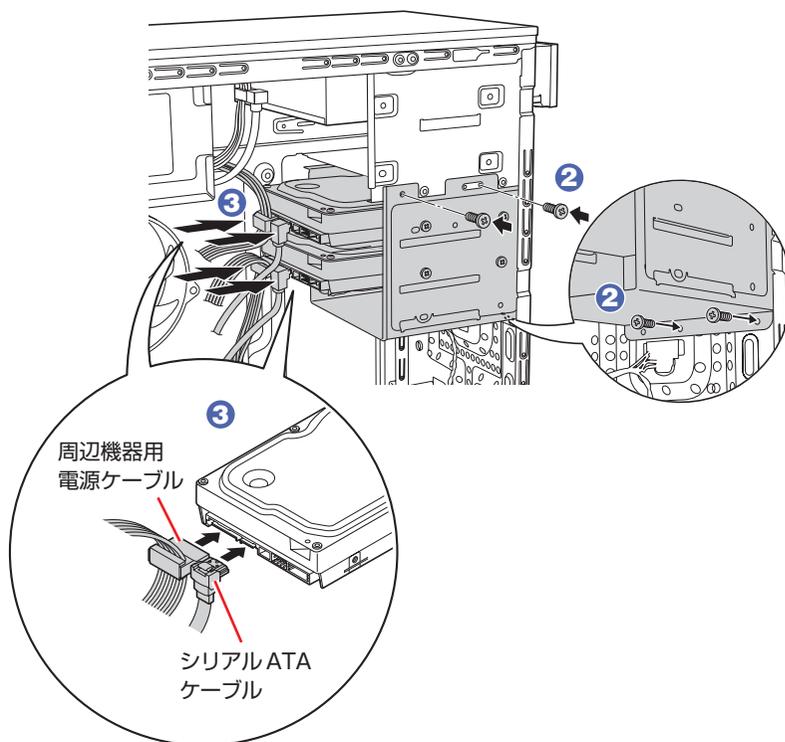
## 6 HDD キャリアを本体に取り付けます。

- 1 奥は HDD キャリア側のツメを本体側の切込みに差し込み、手前は HDD キャリアのネジ穴部分を本体のネジ穴部分にかぶせます。



- 2 HDD キャリアのネジ穴に本体のネジ穴を合わせて、ネジ（4本）で固定します。
- 3 シリアル ATA ケーブルを、HDD のコネクタとマザーボード上のシリアル ATA コネクタに接続し、周辺機器用電源ケーブルを、HDD の電源コネクタに接続します。

マザーボード上のコネクタ位置は、 p.38 「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。



**7** 本体カバーを取り付けます。  
👉 p.18 「本体カバーの取り外し・取り付け」

**8** **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて👉 p.48 「HDD 取り付け後の作業」を行います。

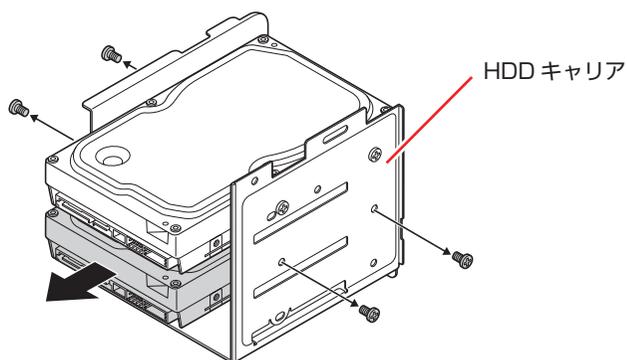
## 取り外し

HDD の取り外しは、👉 p.46 「取り付け」の **5** を次の手順に読み替えて行ってください。

**！制限** HDD へのアクセス制限を設定している場合は、解除してから HDD を取り外してください。  
👉 p.62 「解除方法」

**1** HDD キャリアから HDD を取り外します。

HDD キャリアと HDD を固定しているネジ（4 本）を外し、HDD キャリアから HDD を外します。



ほかの HDD を取り付けない場合は、シリアル ATA ケーブルをマザーボードから取り外し、大切に保管して下さい。

## HDD取り付け後の作業

HDD を取り付けたら、ドライブの作成を行ってください。

## そのほかの3.5型ドライブを装着する

HDD 以外の 3.5 型ドライブは、一番上のベイに装着します。  
一番上のベイに装着されている HDD は、別のベイへ移動してください。

 p.45 「HDD の取り付け・取り外し」

装着は、フロントパネルの 3.5 型フェイスプレートを取り外してから、光ディスクドライブの手順を参考にして行ってください。

 p.22 「3.5 型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

 p.41 「光ディスクドライブの取り付け・取り外し」

ケーブルの接続方法は、ドライブにより異なります。また、ドライブ装着後に、BIOS の変更や、ドライバーのインストールなどが必要な場合があります。  
詳しくは、装着するドライブのマニュアルをご覧ください。

※ 本機のマザーボード上に、FDD やマルチカードリーダー接続用のコネクタは用意されていません。

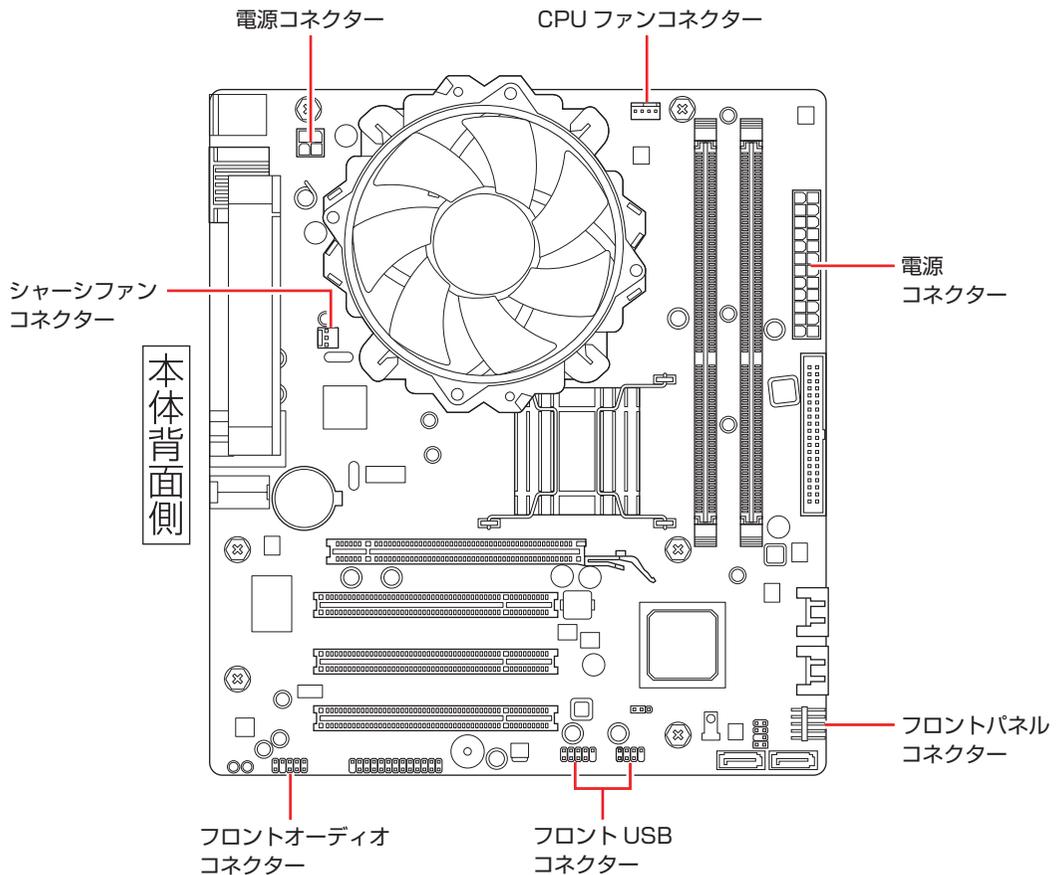
# コンピューター内部のケーブル接続

本機の内部には何本かのケーブルがあり、マザーボードに接続されています。通常、これらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って外してしまった場合には、次の図を参照して、正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

## コネクタ位置 (マザーボード上)



# 3

## BIOS の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について記載しています。

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| BIOS の設定を始める前に.....            | 52 |
| BIOS Setup ユーティリティーの操作.....    | 53 |
| BIOS Setup ユーティリティーの設定項目 ..... | 65 |

# BIOS の設定を始める前に



## 制限

当社製以外の BIOS を使用すると、OS が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOS は、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

BIOS の設定は「BIOS Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOS の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合

BIOS の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



## 参考

### リチウム電池の寿命

BIOS Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 **別冊** 「ユーザーズマニュアル」 - 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

## 動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.65 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

 p.58 「設定値を元に戻す」

# BIOS Setup ユーティリティの操作

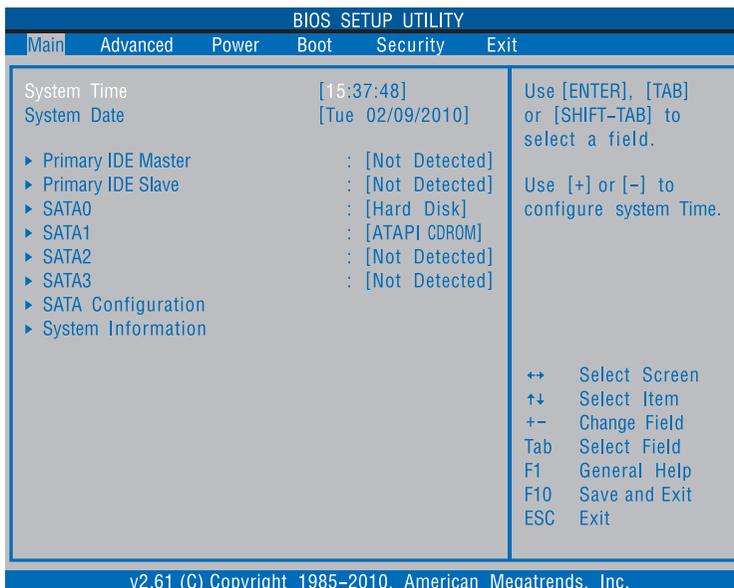
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- ユーザー設定値を保存する
- パスワードを設定する
- HDD アクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

## BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。**2** では、すばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1** 本機の電源を入れます。  
すでに OS が起動している場合は、再起動します。
- 2** 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。  
OS が起動してしまった場合は、再起動して **2** をもう一度実行してください。
- 3** 「BIOS Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



v2.61 (C) Copyright 1985-2010, American Megatrends, Inc.

< BIOS Setup ユーティリティ画面 (イメージ) >

## 仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

**CMOS Checksum Bad**  
**Press F1 to Run SETUP**

このメッセージが表示されたら **[F1]** を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.57 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

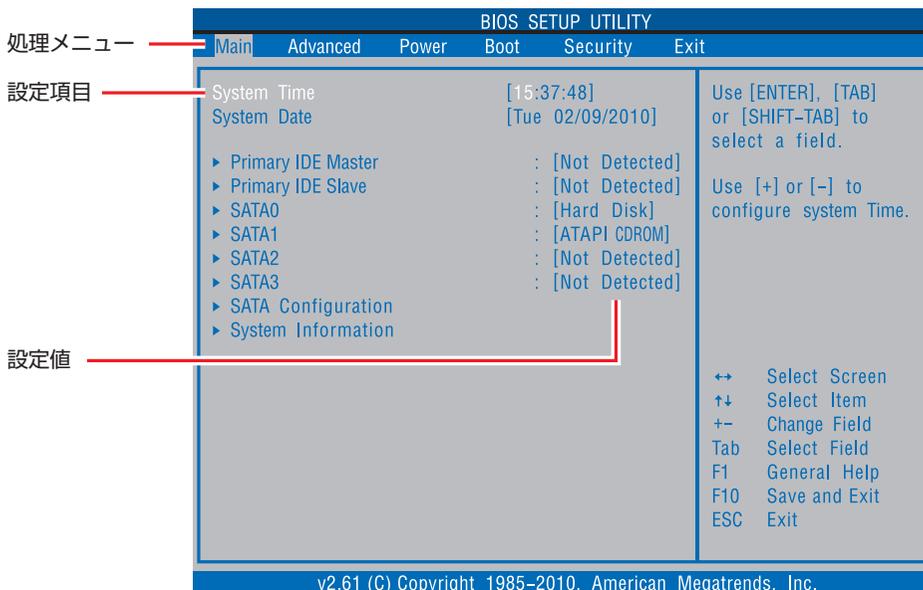
## BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.65 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

## 画面の構成

BIOS Setup ユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

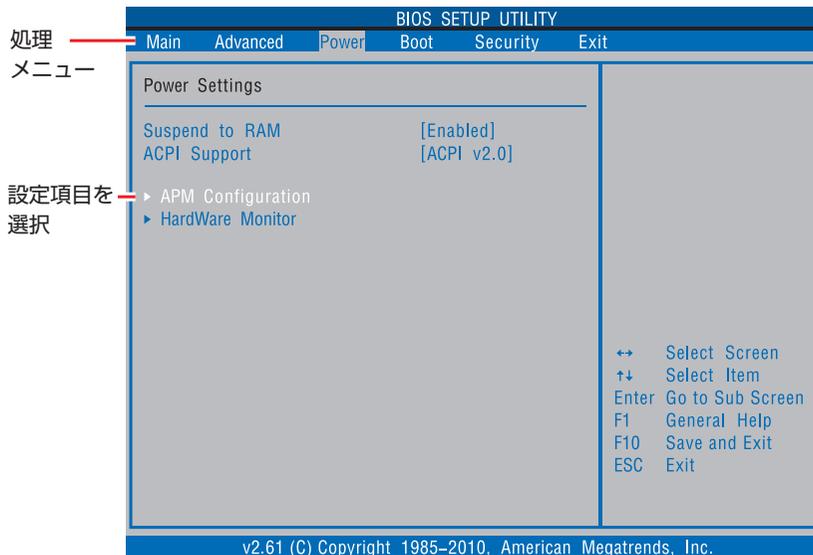
## 操作方法

BIOS Setup ユーティリティの操作方法は次のとおりです。

- 1 変更したい設定項目のあるメニューを、処理メニューから選択し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

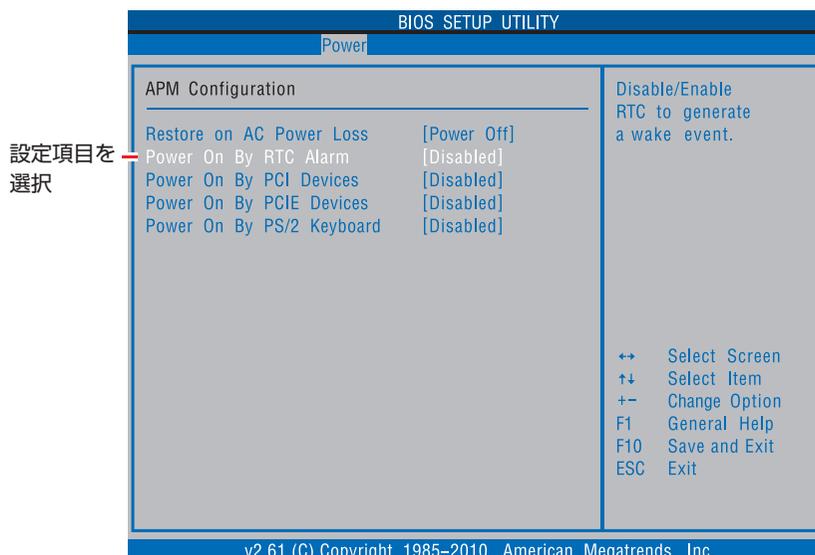
↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



<メニュー画面>

### ▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、← を押すとサブメニュー画面が表示されます。↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



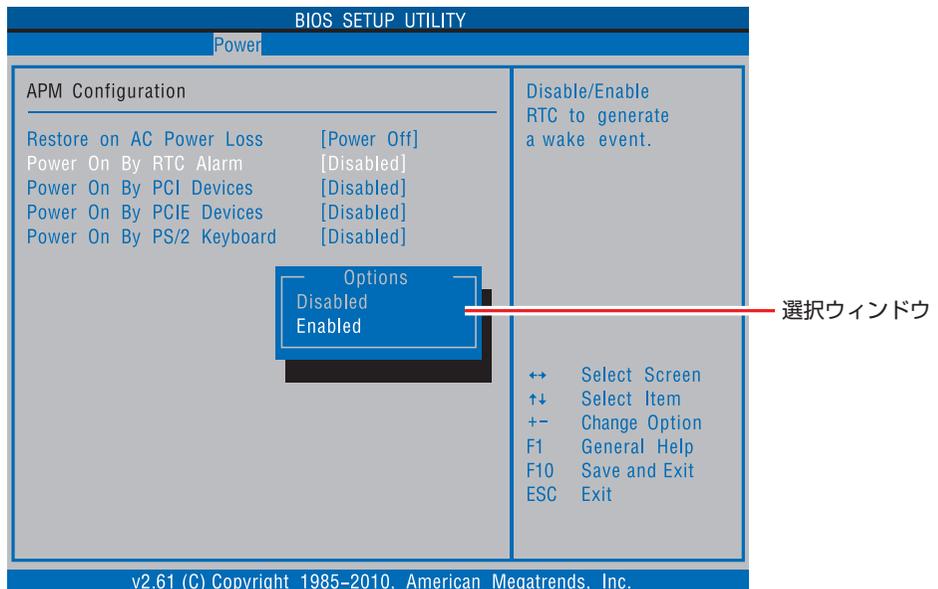
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには Esc を押します。



## 2 設定値を変更します。

← を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ↵ で決定します。



## キー操作

BIOS の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

| キー   | 操作できる内容  |
|------|--|
| Esc  | <ul style="list-style-type: none"><li>変更した内容を破棄し、終了します。</li><li>サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。</li></ul>                                   |
| ↑, ↓ | 設定を変更する項目を選択します。   |
| ←, → | 処理メニューを選択します。  |
| -, + | 項目の値を変更します。  |
| ↵    | <ul style="list-style-type: none"><li>メニュー画面中の ▶ のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。</li><li>選択項目の選択ウィンドウを表示します。</li><li>設定値を選択します。</li></ul> |
| F1   | ヘルプを表示します。   |
| F5   | 全設定項目の値を、BIOS の初期値に戻します。   |
| F7   | 変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。  |
| F10  | 変更した設定値を保存して終了します。   |

## BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

### Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

|   |
|---|
| Save configuration changes and exit setup?<br>[OK] [Cancel] |
|---|

- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。  
「BIOS Setup ユーティリティ」が終了し、OS が起動します。

### Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

|  |
|--|
| Discard changes and exit setup?<br>[OK] [Cancel] |
|--|

- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。  
「BIOS Setup ユーティリティ」が終了し、OS が起動します。

## 設定値を元に戻す

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、設定値を BIOS の初期値や前回保存した値に戻すことができます。

### Load Setup Defaults (BIOS の初期値に戻す)

設定値を BIOS の初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※「Security」メニュー画面の項目を BIOS の初期値に戻すことはできません。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

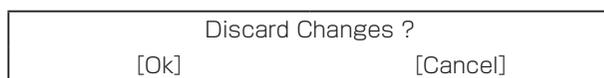


- 2 **Ok** を選択し、**Enter** を押します。  
これで設定値が「BIOS の初期値」に戻ります。

### Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

設定値を前回保存した値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **Ok** を選択し、**Enter** を押します。  
これで設定値が「前回保存した値」に戻ります。

## ユーザー設定値を保存する

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定値を変更した場合、その状態を「ユーザー設定値」として保存しておくことができます。ユーザー設定値を保存しておく、と、「Load Setup Defaults」やリチウム電池の脱着を行って、設定値が「BIOS の初期値」になってしまった場合などに、「ユーザー設定値」に戻すことができます。

### Save User Define (ユーザー設定値を保存する)

設定値を「ユーザー設定値」として保存する方法は、次のとおりです。

- 1 BIOS Setup ユーティリティの設定値を変更します。

- 2** 「Exit」メニュー画面－「Save User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

|                   |          |
|-------------------|----------|
| Save User Define? |          |
| [OK]              | [Cancel] |

- 3** [OK] を選択し、 を押します。  
これで設定値が保存されます。

## Load Setup User Define (ユーザー設定値に戻す)

設定値を「ユーザー設定値」に戻す方法は、次のとおりです。  
※「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。

- 1** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

|                         |          |
|-------------------------|----------|
| Load Setup User Define? |          |
| [OK]                    | [Cancel] |

- 2** [OK] を選択し、 を押します。  
これで設定値が「ユーザー設定値」に戻ります。

## パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、BIOS や OS の起動時にパスワードを要求されるようになります。  
パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき  
(HDD アクセス制限など)

## パスワードの種類

パスワードには次の 2 種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)  
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードで BIOS にログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)  
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードで BIOS にログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます (権限は、設定変更することができます)。

 p.61 「ユーザーパスワードの権限設定」

## パスワードの設定方法

パスワードの設定方法を説明します。



設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOS の設定変更や、設定によっては OS の起動ができなくなります。

### 管理者パスワードの設定

管理者パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードや HDD アクセス制限などが設定できるようになります。

- 1 「Security」メニュー画面－「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password:

- 2 パスワードを入力し、 を押します。

「\*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm New Password:

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match !」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOS のメニュー画面に戻ります。この場合、**1** からやりなおしてください。

- 4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」項目の値が「Installed」に変わります。

### パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setup ユーティリティ起動時や、OS 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.71 「Security メニュー画面」－「Password Check」

## ユーザーパスワードの設定

ユーザーパスワードは、 p.60 「管理者パスワードの設定」 - **1** で「Change User Password」を選択し、管理者パスワードと同様の手順で設定します。

## ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードで BIOS にログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.71 「Security メニュー画面」 - 「User Access Level」

## パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードで BIOS にログオンしてください。

※ HDD アクセス制限やユーザーパスワードを設定している場合、管理者パスワードを削除すると、自動的に HDD アクセス制限やユーザーパスワードも削除（解除）されます。

- 1** 「Security」メニュー画面 - 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

- 2** 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.

[OK]

- 3** [OK] が選択された状態で  を押します。

「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。

これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードや HDD アクセス制限を設定している場合は、「User Password」項目の表示が「Not Installed」に、「Hard Disk Protection」項目の表示が「Disabled」に変わります。

## HDDアクセス制限

HDD アクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- BIOS や OS 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求される
- HDD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されなくなる

HDD への無断アクセスや、万が一 HDD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD アクセス制限を設定します。

## HDD アクセス制限の設定 / 解除方法

HDD アクセス制限の設定 / 解除方法を説明します。

### 制限

- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- HDD を増設・交換する際は、HDD へのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

### 設定方法

HDD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。  
本機を一度シャットダウンしないと、HDD アクセス制限は正常に設定できません。  
必ずシャットダウンしてから設定を行ってください。
- 2** 「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。
- 3** 管理者パスワードを設定します。  
 p.60 「パスワードの設定方法」
- 4** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。  
 p.71 「Security メニュー画面」
- 5** BIOS Setup ユーティリティを終了します。
- 6** OS が起動したら、本機の電源を切ります。  
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

### 解除方法

HDD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。  
本機を一度シャットダウンしないと、HDD アクセス制限は正常に解除できません。  
必ずシャットダウンしてから解除を行ってください。
- 2** 「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。
- 3** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。  
 p.71 「Security メニュー画面」
- 4** BIOS Setup ユーティリティを終了します。
- 5** OS が起動したら、本機の電源を切ります。  
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

## 起動(Boot)デバイスの順番を変更する

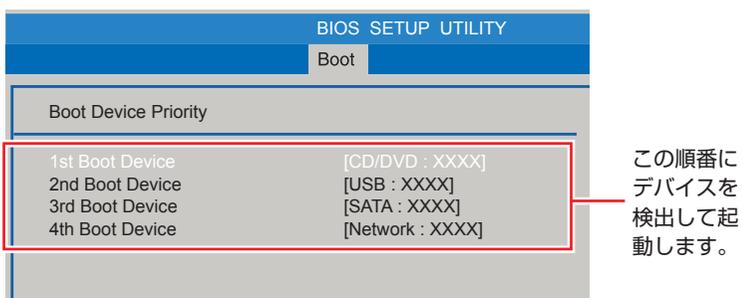
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、USB 記憶装置 (USB フラッシュメモリーや USB HDD など) を接続していたり、USB FDD に FD がセットされていると、OS が起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定されている起動 (Boot) デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

### 起動 (Boot) デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム (OS) から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面ー「Boot Device Priority」で行います。



<イメージ>

「Boot Device Priority」には、接続 (設定) されているデバイスが表示されます。

- CD/DVD:XXXX (光ディスクドライブの型番)
- USB:XXXX (USB FDD や USB フラッシュメモリーなどの型番)
- SATA:XXXX (HDD の型番)
- Network:XXXX (ネットワーク)
- Disabled (検出するデバイスを割り当てないときに設定します)

## 起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で OS を起動できるように、1 番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2 番目に起動するドライブを HDD に設定する方法を説明します。

**1** 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択し、 を押します。

**2** サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。

**3** HDD の順番を 2 番目に設定します。

**1**   で「2nd Boot Device」(2 番目) を選択し、 を押します。

**2** 選択ウィンドウが表示されたら、  で「SATA:XXXX」を選択し、 を押します。

HDD の順番が 2 番目になります。



<選択ウィンドウ>

**4**  を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.57 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの変更は完了です。

# BIOS Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法について説明します。  
BIOS Setup ユーティリティには、次の6つのメニューがあります。

- Main メニュー画面  
日付、時間、HDD などの設定を行います。
- Advanced メニュー画面  
CPU に関する設定、I/O 関係の動作設定や PCI バス関係の設定などを行います。
- Power メニュー画面  
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面  
システムを起動するドライブの設定や本機の動作状態の設定などを行います。
- Security メニュー画面  
パスワードやセキュリティに関する設定を行います。
- Exit メニュー画面  
BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

## Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDD などの設定を行います。  
設定項目は、次のとおりです。

 は初期値  
\*は項目表示のみ

|             |                               |
|-------------|-------------------------------|
| System Time | 時刻を設定します。(時間：分：秒)の順で表示されます。   |
| System Date | 日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。 |

|   |  |
|---|--|
| Primary IDE Master<br>Primary IDE Slave<br>SATA 0 / SATA 1 / SATA 2 /<br>SATA 3 | 各ドライブの仕様を設定します。<br>※表示される詳細項目は、ドライブにより異なります。   |
| * Device  | ドライブの種類を表示します。   |
| * Vender  | ドライブの型番を表示します。   |
| * F/W   | ドライブのファームウェアのバージョンを表示します。  |
| * Size  | HDDの容量を表示します。  |
| * LBA Mode  | LBA (Logical Block Addressing) のサポート状態を表示します。  |
| * PIO Mode  | ドライブのPIO 転送モードを表示します。  |
| * DMA Mode  | HDDのDMA 転送モードを表示します。   |
| * SMART Monitoring  | S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) の状態を表示します。                     |
| Type  | ドライブの仕様を設定します。<br>Auto : BIOSが自動的にシリアルATA装置の仕様を設定します。<br>Not Installed : ドライブを使用しない場合に選択します。 |
| LBA / Large LBA   | LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを設定します。<br>Disabled : 使用しません。<br>Auto : 使用します。       |
| Block Mode  | 一度に何セクター転送できるかを表示します。<br>Disabled : 使用しません。<br>Auto : BIOSが自動的に最適な速度を設定します。                  |
| PIO Mode  | ドライブのPIO 転送モードを設定します。<br>初期値 [Auto] のままで使用します。   |
| DMA Mode  | ドライブのDMA 転送モードを設定します。<br>初期値 [Auto] のままで使用します。   |
| SMART Monitoring  | 初期値 [Disabled] のままで使用します。  |
| 32Bit Data Transfer   | 32Bit データ転送を使用するかどうかを設定します。<br>Disabled : 使用しません。<br>Enabled : 使用します。                        |
| SATA Configuration  | シリアルATA HDDの設定をします。  |
| Configure SATA as   | シリアルATA HDDの動作モードが表示されます。  |
| Standard IDE Mode   | Standard IDEのモードを設定します。<br>初期値 [Enhanced Mode] のままで使用します。                                    |
| System Information  | 本機の仕様を表示します。   |
| AMI BIOS  | BIOSの情報を表示します。   |
| * Version   | BIOSのバージョンを表示します。  |
| * Build Date  | BIOSのバージョンの制定日を表示します。  |
| System Memory   | 本機に搭載されているメモリー容量の情報を表示します。   |
| * Installed Memory  | 本機に搭載されているメモリー容量を表示します。  |
| * Usable Memory   | 本機で使用できるメモリー容量を表示します。<br>※表示限界 : 3550MB  |

## Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値

\* は項目表示のみ

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| CPU Configuration             | 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。  |
| * Manufacturer                | メーカーを表示します。   |
| * Brand String                | 型番を表示します。   |
| * Frequency                   | 周波数を表示します。  |
| * FSB speed                   | バス・スピードを表示します。  |
| * Cache L1                    | CPUのL1キャッシュ容量を表示します。  |
| * Cache L2                    | CPUのL2キャッシュ容量を表示します。  |
| * Cache L3                    | CPUのL3キャッシュ容量を表示します。  |
| * CPUID                       | CPU IDを表示します。   |
| * Ratio Actual Value          | ベースクロックに対する倍率を表示します。  |
| Virtualization Technology     | Intel Virtualization Technology 機能の有効 / 無効を設定します。<br>Virtualization Technology 機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。<br>Disabled : 無効にします。<br>Enabled : 有効にします。                  |
| Onboard Devices Configuration | マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。  |
| Onboard Audio                 | マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。<br>Disabled : 使用しません。<br>Enabled : 使用します。  |
| Onboard LAN                   | マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。<br>Disabled : 使用しません。<br>Enabled : 使用します。  |
| Onboard LAN Boot ROM          | リモートブート機能の有効 / 無効を設定します。<br>Disabled : 無効にします。<br>Enabled : 有効にします。<br>[Enabled] に設定して再起動すると、「Boot」メニュー画面 - 「Boot Device Priority」に「4th Boot Device」として表示されます。    |
| Serial Port 1 Address         | シリアルポート 1 のアドレスと IRQ 信号を設定します。<br>Disabled : シリアルポートを使用しません。<br>3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3  |
| Parallel Port Address         | パラレルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。<br>Disabled : パラレルポートを使用しません。<br>378/IRQ7, 278/IRQ5, 3BC/IRQ7   |
| Parallel Port Mode            | パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。<br>Normal : 標準の設定です。<br>Bi-Directional : EPP+ECP モードまたは双方向モードに設定します。<br>ECP : ECP モードに設定します。<br>EPP : EPP モードに設定します。 |

|                        |  |
|------------------------|--|
| ECP Mode DMA Channel   | 「Parallel Port Mode」を [ECP] に設定すると表示されます。<br>初期値 [DMA3] のままで使用します。                   |
| EPP Version            | 「Parallel Port Mode」を [EPP] に設定すると表示されます。<br>初期値 [1.9] のままで使用します。                    |
| USB Configuration      | USB コントローラーの設定をします。  |
| USB Function           | 初期値 [Enabled] のままで使用します。   |
| Legacy USB Support     | 初期値 [Enabled] のままで使用します。   |
| USB2.0 Controller      | USB の転送速度を設定します。<br>Disabled : USB 1.1 の転送速度で使用します。<br>Enabled : USB2.0 の転送速度で使用します。 |
| USB2.0 Controller Mode | 初期値 [HiSpeed] のままで使用します。   |

## Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。  
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値  
\* は項目表示のみ

|  |   |
|--|---|
| ACPI Support                               | 初期値 [ACPI v2.0] のままで使用します。  |
| APM Configuration                          | 起動する方法や条件を設定します。  |
| Restore on AC Power Loss                   | 電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。<br>分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。<br>Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。<br>Power On : 電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。<br>Last State : コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。 |
| Power On By RTC Alarm                      | コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。<br>Disabled : 設定しません。<br>Enabled : 設定します。   |
| RTC Alarm Date<br>Hour<br>Minute<br>Second | [Power On By RTC Alarm] を [Enabled] に設定すると表示されます。<br>起動する日時を設定します。  |
| Power On By PCI Devices                    | 電源切断時、PCI 接続のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、OS を正常に終了した状態でのみ使用可能です。<br>Disabled : 設定しません。<br>Enabled : 設定します。   |
| Power On By PCIE Devices                   | 電源切断時、マザーボード上のネットワーク (PCI Express 接続) から起動するかどうかを設定します。この機能は、OS を正常に終了した状態でのみ使用可能です。<br>Disabled : 設定しません。<br>Enabled : 設定します。  |
| Power On By PS/2 Keyboard                  | PS/2 キーボードを使用している場合に、起動 / 復帰をキーボードで行えるようにするかどうかを設定します。<br>Ctrl+ESC : <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="Esc"/> を使用します。<br>Disabled : 設定しません。   |
| Fan Control                                | ファンの制御をします。   |
| CPU Fan Control                            | CPU ファンを制御するかどうかを設定します。<br>初期値 [Enabled] のままで使用します。   |
| CPU Fan Ratio                              | CPU ファンの回転率を設定します。初期値 [20%] のままで使用します。  |
| Chassis Fan Control                        | シャーシファンを制御するかどうかを設定します。<br>初期値 [Enabled] のままで使用します。   |
| Chassis Fan Ratio                          | シャーシファンの回転率を設定します。初期値 [60%] のままで使用します。  |

## Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。

Boot 順番の変更方法については、 p.63 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

 は初期値

\*は項目表示のみ

|   |  |
|---|--|
| Boot Device Priority                            | システムを起動するドライブの順番を設定します。  |
| 1st Boot Device                                 | 1 番目に起動するドライブを設定します。<br>初期値は搭載されている光ディスクドライブの型番が表示されます。  |
| 2nd Boot Device                                 | 2 番目に起動するドライブを設定します。<br>初期値は搭載されている HDD の型番が表示されます。<br>USB 機器を接続している場合は、USB 機器の型番が表示されます。  |
| 3rd Boot Device                                 | 3 番目に起動するドライブを設定します。<br>USB 機器を接続している場合は、搭載されている HDD の型番が表示されます。   |
| 4th Boot Device<br>※リモートブート機能を有効にすると表示されま<br>す。 | ネットワークから起動する場合に使用します。<br>リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard<br>Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を [Enabled] に<br>設定し、変更を保存して再起動します。 |
| Hard Disk Drives                                | 搭載されている HDD の順番を表示します。   |
| 1st Device                                      | 搭載されている HDD の型番が表示されます。  |
| 2nd Device                                      |  |
| 3rd Device                                      |  |
| Removable Device                                | 接続している記憶装置の順番を表示します。   |
| 1st Device                                      | 接続している記憶装置（USB フラッシュメモリーなど）の型番が表示されます。   |
| 2nd Device                                      |  |
| 3rd Device                                      |  |
| 4th Device                                      |  |
| Optical Disc Drive                              | 搭載されている光ディスクドライブの順番を表示します。   |
| 1st Device                                      | 搭載されている光ディスクドライブの型番が表示されます。  |
| 2nd Device                                      |  |
| Boot Settings Configuration                     | コンピューター起動時の設定をします。   |
| Full Screen Logo                                | コンピューター起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。<br>Disabled：表示しません。<br>Enabled：表示します。  |
| Bootup Num-Lock                                 | DOS 起動時の NumLock の状態を設定します。<br>Off：NumLock が押されていない状態にします。<br>On：NumLock が押された状態にします。  |

## Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードやセキュリティーに関する設定を行います。  
 パスワードの設定方法は、 p.59 「パスワードを設定する」をご覧ください。  
 設定項目は、次のとおりです。

 は初期値

\*は項目表示のみ

|   |  |
|---|--|
| Security Settings                                     | システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティー」起動時などのパスワードを設定します。  |
| Supervisor Password/<br>User Password                 | Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかを表示します。<br>Installed  : パスワードが設定されています。<br>Not Installed : パスワードが設定されていません。  |
| Change Supervisor<br>Password                         | 管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setup ユーティリティー」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。<br> を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。  |
| User Access Level<br>※管理者パスワードを設定<br>すると表示されます。       | 「User Password」(ユーザーパスワード) で「BIOS Setup ユーティリティー」にアクセスするときのアクセス制限レベルを 4 段階で設定します。<br>No Access : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティー」を起動することができません。<br>View Only : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティー」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。<br>Limited : 「BIOS Setup ユーティリティー」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。<br>Full Access  : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOS Setup ユーティリティー」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。 |
| Change User Password<br>※管理者パスワードを設定<br>すると表示されます。    | ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setup ユーティリティー」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。  |
| Password Check<br>※管理者パスワードを設定<br>すると表示されます。          | 管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。<br>Setup  : 「BIOS Setup ユーティリティー」起動時にパスワード入力を要求します。<br>Always : 「BIOS Setup ユーティリティー」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。   |
| Hard Disk Security                                    | HDD のセキュリティー機能の設定をします。   |
| Hard Disk Protection<br>※管理者パスワードを設定<br>すると設定可能になります。 | HDD へのアクセス制限の有効 / 無効を設定します。アクセス制限を有効に設定した HDD は、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。<br>有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS 起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。<br>Disabled  : HDD へのアクセスを制限しません。<br>Enabled : HDD へのアクセスを制限します。<br>※ HDD アクセス制限を設定 / 解除する場合は、必ず本機を一度シャットダウンしてから行ってください。また、設定 / 解除後にも本機をシャットダウンしてください。  |

## Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

|                        |   |
|------------------------|---|
| Exit & Save Changes    | 変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setup ユーティリティを終了します。  |
| Exit & Discard Changes | 変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。   |
| Discard Changes        | BIOS Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。                                     |
| Load Setup Defaults    | BIOS Setup ユーティリティの設定値を、BIOS の初期値に戻します。<br>※「Security」メニュー画面の項目をBIOS の初期値に戻すことはできません。 |
| Save User Define       | BIOS の設定値をユーザー設定値として保存します。  |
| Load Setup User Define | ※「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。<br>設定値をユーザー設定値に戻します。                           |

## BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。ユーザー設定値は、保存しておくこともできます。  p.58 「ユーザー設定値を保存する」

## Mainメニュー画面

| 項目   |                        | 購入時の設定   |              | 変更内容     |              |
|--|------------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| Primary IDE<br>Master Primary<br>IDE Slave | Type                   | Auto     | Not Detected | Auto     | Not Detected |
|  | LBA/Large LBA          | Auto     | Disabled     | Auto     | Disabled     |
|  | Block Mode             | Auto     | Disabled     | Auto     | Disabled     |
| SATA0<br>SATA1<br>SATA2<br>SATA3           | 32Bit Date<br>Transfer | Disabled | Enabled      | Disabled | Enabled      |

## Advanced メニュー画面

| 項 目                           |                           | 購入時の設定  |                             | 変更内容  |                             |
|-------------------------------|---------------------------|---|-----------------------------|---|-----------------------------|
| CPU Configuration             | Virtualization Technology | Disabled  | Enabled                     | Disabled  | Enabled                     |
| Onboard Devices Configuration | Onboard Audio             | Disabled  | Enabled                     | Disabled  | Enabled                     |
|                               | Onboard LAN               | Disabled  | Enabled                     | Disabled  | Enabled                     |
|                               | Onboard LAN Boot ROM      | Disabled  | Enabled                     | Disabled  | Enabled                     |
|                               | Serial Port 1 Address     | Disabled<br>3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3 |                             | Disabled<br>3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3 |                             |
|                               | Parallel Port Address     | Disabled<br>378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7          |                             | Disabled<br>378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7          |                             |
|                               | Parallel Port Mode        | Normal<br>ECP EPP                               | Bi-Directional<br>ECP & EPP | Normal<br>ECP EPP                               | Bi-Directional<br>ECP & EPP |
| USB Configuration             | USB 2.0 Controller        | Disabled  | Enabled                     | Disabled  | Enabled                     |

## Power メニュー画面

| 項 目               |                           | 購入時の設定    |                     | 変更内容      |                     |
|-------------------|---------------------------|-----------|---------------------|-----------|---------------------|
| APM Configuration | Restore on AC Power Loss  | Power Off | Power On Last State | Power Off | Power On Last State |
|                   | Power On By RTC Alarm     | Disabled  | Enabled             | Disabled  | Enabled             |
|                   | Power On By PCI Devices   | Disabled  | Enabled             | Disabled  | Enabled             |
|                   | Power On By PCIE Devices  | Disabled  | Enabled             | Disabled  | Enabled             |
|                   | Power On By PS/2 Keyboard | Disabled  | Ctrl+ESC            | Disabled  | Ctrl+ESC            |

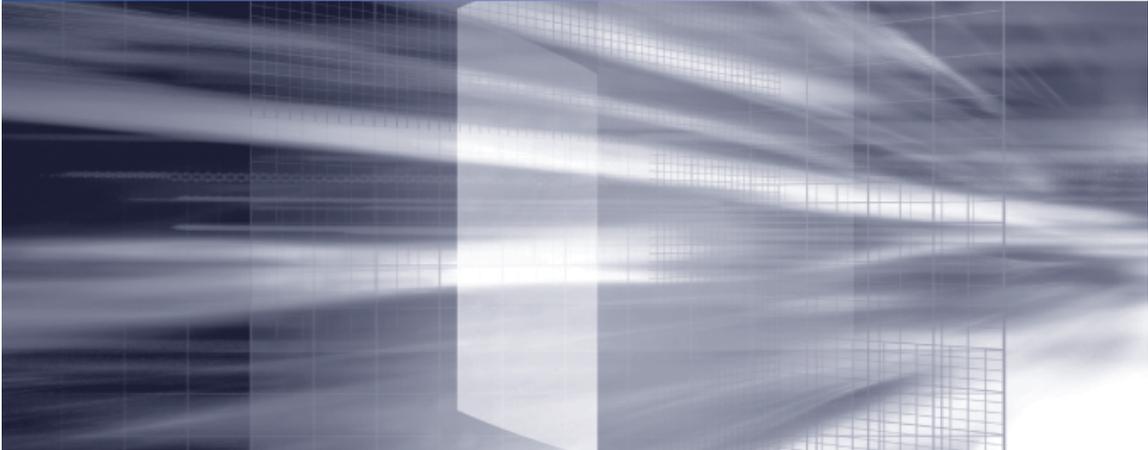
## Boot メニュー画面

| 項 目                         |                  | 購入時の設定   |         | 変更内容     |         |
|-----------------------------|------------------|----------|---------|----------|---------|
| Boot Device Priority        | 1st Boot Device  | Disabled | ( )     | Disabled | ( )     |
|                             | 2nd Boot Device  | Disabled | ( )     | Disabled | ( )     |
|                             | 3rd Boot Device  | Disabled | ( )     | Disabled | ( )     |
|                             | 4th Boot Device  | Disabled | ( )     | Disabled | ( )     |
| Boot Settings Configuration | Full Screen Logo | Disabled | Enabled | Disabled | Enabled |
|                             | Bootup Num-Lock  | Off      | On      | Off      | On      |

## Security メニュー画面

| 項 目                |                        | 購入時の設定            |                       | 変更内容              |                       |
|--------------------|------------------------|-------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|
| Security Settings  | Supervisor password    | Not Installed     | Installed             | Not Installed     | Installed             |
|                    | User password          | Not Installed     | Installed             | Not Installed     | Installed             |
|                    | * User Access Level    | No Access Limited | View Only Full Access | No Access Limited | View Only Full Access |
|                    | * Password Check       | Setup             | Always                | Setup             | Always                |
| Hard Disk Security | * Hard Disk Protection | Disabled          | Enabled               | Disabled          | Enabled               |

\* 管理者パスワードを設定すると表示されます。



# 付録

本機の仕様やお手入れ方法、リチウム電池の脱着方法などについて説明します。

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| お手入れ .....                    | 76 |
| リチウム電池の脱着（CMOS RAMの初期化） ..... | 77 |
| コンピューターを廃棄するときは .....         | 80 |
| 機能仕様一覧 .....                  | 81 |

# お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

## 本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

### 外装

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。  
変色や変形の可能性があります。

### 通風孔

通風孔にホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。  
定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

### 内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアースプレーで吹き飛ばしてください。



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。  
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。  
けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。  
水分や化学物質により故障の原因となります。

# リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)

「BIOS Setup ユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上の COMS RAM に保存され、リチウム電池により保持されています。

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、寿命は約 3 年です。日時や時間がおかしくなったり、BIOS で設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

BIOS のパスワードを忘れてたり、項目設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、リチウム電池を装着しなおすことで、CMOS RAM が初期化され、問題が解決できる場合があります。お試しください。

本機で使用できるリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032 (または同等品)



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



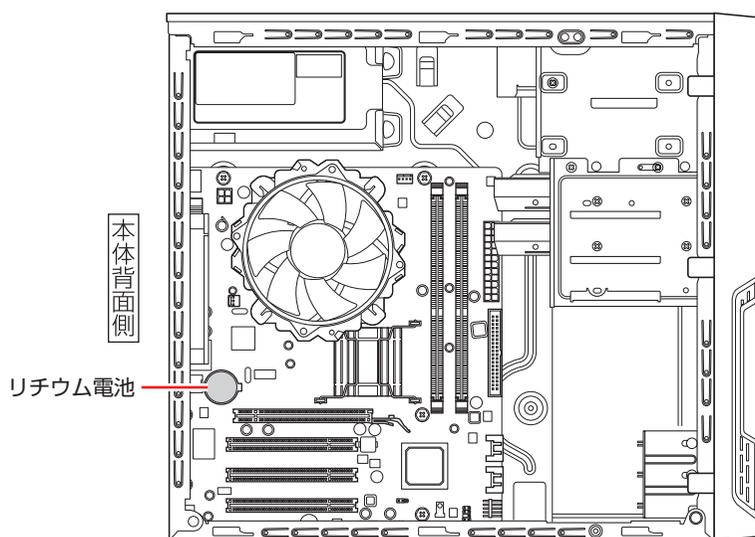
- リチウム電池の取り外しは、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って 10 分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所 (ぐらついた机の上や傾いた所など) で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



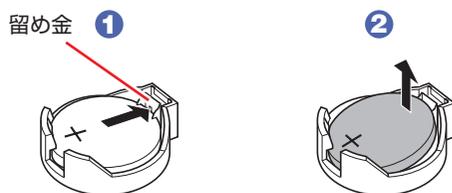
- リチウム電池を取り外すと、現在の BIOS の設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池を取り外す前に、BIOS の設定値を記録しておくことをおすすめします。ユーザーの設定値は、「Save User Define」で保存しておくこともできます。詳しくは、次の場所をご覧ください。  
 p.58 「ユーザー設定値を保存する」
- BIOS で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、リチウム電池を取り外しても、HDD へのアクセス制限を解除することはできません。HDD へのアクセス制限を設定した HDD は、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。

リチウム電池の脱着方法は、次のとおりです。

- 1** 本機および接続している周辺機器の電源を切ります。  
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。  
 p.18 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」
- 4** リチウム電池の位置を確認します。  
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。



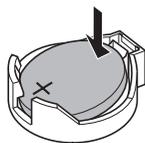
- 5** リチウム電池を取り外します。
  - 1** 電池ホルダーの留め金を押します。
  - 2** リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



- 6** 約 1 分間放置します。

## 7 リチウム電池を取り付けます。

交換する場合は、新しいリチウム電池を取り付けてください。  
刻印面(+側)が表側になるようにして取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。



## 8 本体カバーを取り付けます。

 p.19 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り付け」

## 9 2 で外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

## 10 本機の電源を入れます。

## 11 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Checksum Bad」と表示されたら、 を押して、BIOS Setup ユーティリティを実行します。

## 12 を押して、BIOS を初期値に戻します。

## 13 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。

ユーザーの設定値を保存しておいた場合は、「Load Setup User Define」で戻すことができます。

 p.58 「ユーザー設定値を保存する」

## 14 を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

# コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄する際の注意事項について説明します。  
パソコン回収サービスについては、下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

## コンピューターの廃棄・譲渡時のHDD上のデータ消去に関するご注意

コンピューターは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピューターの中のHDDという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのコンピューターを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このHDD内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ 付属のリカバリー CD/DVD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、HDD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。つまり、一見消去されたように見えますが、OSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このコンピューターのHDD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

コンピューターユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、HDD上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、HDDに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（有償）を利用するか、HDD上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、HDD上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなくコンピューターを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する可能性があるため、十分な確認を行う必要があります。

# 機能仕様一覧

|                       |  |  |
|-----------------------|--|--|
| 型番                    | LX9000   |  |
| CPU                   | プロセッサ  | 購入時の選択による  |
|                       | ソケット   | LGA775 Socket  |
| チップセット                | インテル G41 Express                                       |  |
| BIOS                  | AMI BIOS   |  |
| メインメモリー* <sup>1</sup> | 規格   | PC3-10600 (DDR3-1333 SDRAM)  |
|                       | 搭載可能容量 (最大)  | 4GB (Linux の場合、システム上利用できるのは約 3GB まで)                                       |
|                       | スロット   | DIMM スロット (240 ピン) × 2<br>(同容量 2 枚 1 組で使用の場合、デュアルチャネルで動作)                  |
| ビデオ機能 (CPU 内蔵)        | コントローラー  | インテル G41 Express チップセット内蔵 3D グラフィックス                                       |
|                       | メモリー (メインメモリーと共用)                                      | 最大 360MB * <sup>2</sup>  |
|                       | 表示解像度 (最大) * <sup>3</sup>                              | 1600 × 1200、1920 × 1200 (ワイドディスプレイ接続時のみ)<br>True Color 32 ビット (約 1,677 万色) |
| HDD                   | シリアル ATA 300MB/s 対応 3.5 型 HDD (容量、台数は購入時の選択による)        |  |
| 光ディスクドライブ             | シリアル ATA 対応 5.25 型光ディスクドライブ (種類・台数は購入時の選択による)          |  |
| サウンド機能                | インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応 Realtek 製 ALC662 コントローラー       |  |
| ネットワーク機能              | 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T 対応 インテル製 82573L コントローラー |  |
| マウス/キーボード             | 購入時の選択による  |  |
| インタフェース               | USB2.0   | 8 (前面 × 4、背面 × 4)  |
|                       | LAN  | 1 : RJ-45  |
|                       | サウンド   | 前面 : ヘッドホン出力 × 1、マイク入力 × 1<br>背面 : ライン入力 × 1、ライン出力 × 1、マイク入力 × 1           |
|                       | ディスプレイ   | 1 : VGA ミニ D-SUB 15 ピン   |
|                       | キーボード  | 1 : PS/2 互換 ミニ DIN 6 ピン  |
|                       | マウス  | 1 : PS/2 互換 ミニ DIN 6 ピン  |
|                       | シリアル   | 1 : D-SUB 9 ピン   |
|                       | パラレル (オプション)   | 1 : D-SUB 25 ピン  |
| ドライブベイ                | 5.25 型ドライブベイ   | 2 * <sup>4</sup>   |
|                       | 3.5 型ドライブベイ  | 3 * <sup>4</sup>   |
| 拡張スロット                | PCI Express x16  | 1 : ボード長 198mm まで搭載可能  |
|                       | PCI 2.2  | 3 : ボード長 312mm (フルサイズ) まで搭載可能  |
| 外形寸法 (幅 × 奥行 × 高さ)    | 170 × 403 × 362mm (突起部を除く)                             |  |
| 質量                    | 約 7.6kg (基本構成時)  |  |
| 電源                    | AC100V ± 10% (50/60Hz) 容量 : 300W                       |  |
| 消費電力 (最大定格出力時)        | 375W (理論値)   |  |
| 動作環境                  | 動作温度 : 10 ~ 35℃、動作湿度 : 20 ~ 80% (ただし、結露しないこと)          |  |

\*<sup>1</sup> 今後、使用可能なメモリーが追加される場合があります。また、それにともない、最大搭載可能容量が変更になることがあります。メモリーの最新情報は、当社ホームページでご確認ください。

\*<sup>2</sup> Linux の場合。値は OS により異なります。

\*<sup>3</sup> Linux の場合。解像度は接続するディスプレイの仕様および OS により異なります。

\*<sup>4</sup> シリアル ATA 仕様の HDD/光ディスクドライブは、合わせて 4 台までの接続となります。

## 使用限定について

本製品は、OA 機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24 時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

## 本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

## 電波障害について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

## 有寿命部品について

当社のコンピューターには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1 日約 8 時間、1 ヶ月で 25 日間のご使用で約 5 年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

## JIS C 61000-3-2 適合品

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しております。

電源の入力波形は、正弦波のみをサポートしています。

## パソコン回収について

当社では、不要になったパソコンの回収・再資源化を行っています。

PC リサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。

パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。



<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

## 著作権保護法について

---

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販の CD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

## ご注意

---

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

## 商標について

---

- Intel、インテル、Intel ロゴは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- PS/2 は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は、一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

エプソンダイレクト ユーザーサポートページ

[www.epsondirect.co.jp/support/](http://www.epsondirect.co.jp/support/)